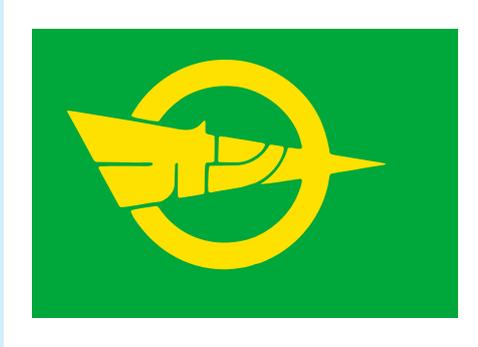


平成30年度

恩納村青年海外派遣事業

第2期



恩納村

はじめに

恩納村青年海外派遣事業は、恩納村出身の青年を恩納村出身者海外移住国であります、カナダ・アメリカ合衆国・ボリビア・アルゼンチン共和国・ブラジル連邦共和国・ペルー共和国にいずれかの国に派遣し、村人会並びに現地との交流や異文化体験を通じて国際的な視野を広げ、地域において意欲的に活動する青年の育成を図るとともに移住国と恩納村との友好親善関係の増進に資することを目的に実施しております。

本事業は、昨年度より新たに実施した事業で、ブラジルやボリビアの村人会や県人会を始めとする現地の方々や研修生の職場、その他関係者の皆様のご協力により無事に終了いたしました。

派遣した研修生を快く受け入れてくださったホストファミリーの方々には心から感謝申し上げます。

研修生の二人は、各地域の皆様からの歓迎、温かく迎え入れてくれたホストファミリーと有意義な日々を過ごし、沖縄への思いに触れ、移住国と恩納村の繋がりを改めて感じたことでしょうか。また、沖縄や日本と違った数々の土地や文化を見学することで、「国際的な」感覚も感じ取れたと思います。

二人には、1か月間を通じて得た貴重な体験を糧に、地域活動には励むとともに、今後もホストファミリーとの交流や受入事業にて沖縄に来る研修生との交流など、恩納村と移住国の友好親善の懸け橋として活躍されることを心から期待しております。

終わりに、本事業の実施に当たり、ご協力いただきました関係者の皆様に深く感謝申し上げますとともに、今後とも本村の国際交流の推進に対し、ご支援・ご協力を賜りますよう、お願い申し上げます、ごあいさついたします。

平成31年3月

恩納村長 長浜 善巳

目 次

はじめに

1. 平成30年度恩納村青年海外派遣事業研修生名簿	1
2. 研修生日程表	3
3. 研修報告書等	
(1) 玉城 悠	
研修報告書	9
修了証書	31
(2) 比屋根 良直	
研修報告書	33
修了証書	49
4. スナップ写真	51
5. 参考資料	
(1) 恩納村青年海外派遣事業実施規則	63
(2) 恩納村青年海外派遣事業実績	66

平成30年度
恩納村青年海外派遣事業研修生名簿

平成30（2018）年度
恩納村青年海外派遣事業研修生名簿
第2期研修生

（恩納村派遣第3号）

氏 名：玉城 悠

生年月日：1990年11月17日（27歳 男性）

出身字：前兼久

両親氏名：（父） 玉城 惇博
（母） 玉城 輝美



派遣期間：平成31年1月9日～平成31年2月10日

派遣先：ブラジル（サントス・サンパウロ・カンポグランデ・ロンドリーナ）
ボリビア

（恩納村派遣第4号）

氏 名：比屋根 良直

生年月日：1990年8月12日（27歳 男性）

出身字：太田

両親氏名：（父） 比屋根良彦
（母） 比屋根幸子



派遣期間：平成31年1月9日～平成31年2月10日

派遣先：ブラジル（サントス・サンパウロ・カンポグランデ・ロンドリーナ）
ボリビア

研修生日程表

恩納村青年海外派遣事業行程表
ブラジル・ポリビア

2019年1月9日～15日							
水	木	金	土	日	月	火	
1月9日	10日	11日	12日	13日	14日	15日	
5:00 AM				空港へ移動			5:00 AM
6:00 AM							6:00 AM
7:00 AM							7:00 AM
8:00 AM							8:00 AM
9:00 AM	サンパウロ着	津嘉山さんの会社で 建築中の建物を見学 貸工場:アルミ等 リサイクル工場見学	フェーラ(移動市場)見学	サンパウロ出発	佐渡山安男さんと畑見学	屋台でアンティクワーチヨを食べる	9:00 AM
10:00 AM							10:00 AM
11:00 AM	那覇発(成田経由)	貸工場:サツ加工工場 アサイー食品加工工場見学	バステル工場見学	ホロビア サンタクルス到着	養豚場後見学	津嘉山しんごさんの畑見学	11:00 AM
12:00 PM							12:00 PM
1:00 PM	津嘉山敏夫さんの会社等見学	貸イベント見学		佐渡山安男さん等お出迎え	第2コロナオキナワ到着	風食:川魚の食堂	1:00 PM
2:00 PM	シュバスカリアにて昼食会			昼食歓迎会	食堂にて昼食		2:00 PM
3:00 PM			サントス沖縄県人会館 三線稽古参加	第一コロナオキナワへ移動		畑見学	3:00 PM
4:00 PM	アトラクタ着	ゴルフ場見学		コロナのホテルにチェックイン	牧場見学		4:00 PM
5:00 PM							5:00 PM
6:00 PM		ショッピングモールで買い物					6:00 PM
7:00 PM				食堂にて有志による 夕食歓迎会	比嘉食堂で夕食	夕食歓迎会	7:00 PM
8:00 PM	サントスのビーチ沿いの レストランで夕食歓迎会	サントス沖縄県人会訪問					8:00 PM
9:00 PM							9:00 PM
10:00 PM							10:00 PM
11:00 PM							11:00 PM
12:00 AM							12:00 AM

恩納村青年海外派遣事業行程表
ブラジル・ボリビア

2019年1月16日～22日								
	水	木	金	土	日	月	火	
	16日	17日	18日	19日	20日	21日	22日	
5:00 AM								5:00 AM
6:00 AM								6:00 AM
7:00 AM								7:00 AM
8:00 AM								8:00 AM
9:00 AM	沖繩移住地日本協会 ティサイビス見学							9:00 AM
10:00 AM		熱田家にてワニ見学		津嘉山昭さんと養殖場見学	津嘉山さんと街散策		サンパウロ出発	10:00 AM
11:00 AM			渡久地政得さん宅にて朝食		市場、教会、広場など訪問		カンボグララテ到着	11:00 AM
12:00 PM	昼食会	安里みなみ琉球新報社特派員 より取材を受ける		昼食	津嘉山さん経営の レストランで昼食	サントス出発	崎浜秀彦さん、源河君枝さん、 山内ひとみさん等お出迎え	12:00 PM
1:00 PM	真栄城さんと畑見学	昼食	昼食		津嘉山さんのアパートで休憩		レストランで昼食歓迎会	1:00 PM
2:00 PM	安里さんの養豚場見学		熱田釣り堀ゴルフ場訪問					2:00 PM
3:00 PM	牧場見学	オキナワボリビア歴史 資料館見学 慰霊碑見学	川魚釣り体験				スーパーで買い物	3:00 PM
4:00 PM				サンタクルスへ移動				4:00 PM
5:00 PM		オキナワ第一日ボ学校訪問		畑見学			仲松さん宅にて交流会	5:00 PM
6:00 PM			比嘉敬光さん主宰の 三線稽古に参加	ホテルチエツクイン		夕食	クリスマスチャンプロエンサさん等 三線交流	6:00 PM
7:00 PM	真栄城家にて夕食歓迎会	夕食歓迎会		ショッピングモールで買い物	NISETA TOUR BOLIVIA2019の 閉会式典に参加	サントスの津嘉山さん アパートへ	夕食歓迎会	7:00 PM
8:00 PM								8:00 PM
9:00 PM				津嘉山さん宅にて夕食				9:00 PM
10:00 PM								10:00 PM
11:00 PM								11:00 PM
12:00 AM								12:00 AM

恩納村青年海外派遣事業行程表

ブラジル・ポリビア

2019年1月23日～29日									
	水	木	金	土	日	月	火		
5:00 AM									
6:00 AM	沖繩そば麵工場見学	パンタナール自然保護区へ 向け出発	25日	26日	27日	28日	29日		
7:00 AM					カンボグラデ出発				
8:00 AM		朝食	源河さん宅にて豆腐作り見学	山内さんと一緒に街へ買い物		国吉さん宅にて朝食	朝食		
9:00 AM				昼食	サンパウロ経由				
10:00 AM				民族資料館見学		国吉さん祖母、両親の 家にて、昼食交流会			
11:00 AM	大城政忠さん来訪、交流 山内さんと合流、スーパーで 買い物、昼食	パンタナール到着、見学							
12:00 PM									
1:00 PM									
2:00 PM									
3:00 PM									
4:00 PM	島田房文さん宅にて 三線等交流会		カンボグラデ日本会館訪問			日本移民公園や街を散策 シヤングリラ市場等			
5:00 PM									
6:00 PM		パンタナール出発		カンボグラデ沖繩県人会見学 三線稽古	ロンドリーナ到着 国吉さん、名嘉真さんお出迎え				
7:00 PM			源河さん宅にて 沖繩そばの夕食会	カラオケ大会交流会					
8:00 PM	レストランノリアキョウダイ にて、交流歓迎会				ロンドリーナ沖繩県人会と 夕食歓迎会				
9:00 PM									
10:00 PM		カンボグラデ到着解散							
11:00 PM									
12:00 AM									

恩納村青年海外派遣事業行程表
ブラジル・ボリビア

2019年1月30日～2月5日							
	水	木	金	土	日	月	火
	30日	31日	2月1日	2日	3日	4日	5日
5:00 AM							
6:00 AM	コーヒー農園に向けて出発						
7:00 AM							
8:00 AM	朝食		フェーラ見学	ロンドリーナ出発 サンパウロ到着			
9:00 AM	コーヒー農園到着、見学		バスフェル屋台で食事	うりずん会お出迎え 沖縄県人会本部訪問	柳原国雄さんと一緒に車で移動して車窓観光 宮殿跡や、リベルダーズ等散策	柳原栄作さんと一緒に歩いて街散策	
10:00 AM		パラナ州日本移民資料館見学		野村流音楽協会ブラジル支部有志と三線稽古 施設見学			
11:00 AM			国吉さん祖父母、両親の宅で昼食会			メルカードムニシパウ見学 昼食	
12:00 PM				うりずん会と昼食交流会			
1:00 PM		菰堂絹さん宅訪問、交流			日本食レストランで昼食		
2:00 PM						街散策 リベルダーズ、劇場、議会議堂、大聖堂等見学	サンパウロ出発
3:00 PM				ピラカロンへ移動			
4:00 PM	昼食			ピラカロン沖縄県人会見学 琉球國祭太鼓、レキオス同好会見学			イグアス到着
5:00 PM		バスターミナルのお土産屋とドリンク店で買い物					
6:00 PM			ショッピングモールで買い物 ミュージックバーで夕食会	うりずん会を中心に夕食歓迎会 レストラン、カラオケ等	恩納村人会を中心に夕食歓迎交流会	串焼き焼肉のお店で夕食 柳原さん宅訪問	ホテルチェックイン
7:00 PM	ホットドックの有名店で食事	夕食					
8:00 PM							シユラスカリアにてギネス級のダンスショーを見ながら夕食会
9:00 PM						柔道場見学	
10:00 PM							
11:00 PM							
12:00 AM							

恩納村青年海外派遣事業行程表
ブラジル・ポリビア

2019年2月6日～2月10日						
	水	木	金	土	日	
	6日	7日	8日	9日	10日	
5:00 AM				アトランタ到着		5:00 AM
6:00 AM						6:00 AM
7:00 AM						7:00 AM
8:00 AM						8:00 AM
9:00 AM	ホテル出発					9:00 AM
10:00 AM	鳥のテーマパーク見学		津嘉山きょうこさんと一緒に街散策			10:00 AM
11:00 AM		津嘉山さん、伊波と一緒に、イタリリへ向かう	きょうこさんのご両親宅訪問	アトランタ出発		11:00 AM
12:00 PM	バスでイグアスの滝に向けて出発	昼食				12:00 PM
1:00 PM	ボートに乗り、水上から滝を見学		昼食			1:00 PM
2:00 PM	イグアスの滝に向かって歩く	イタリリ到着	買い物等			2:00 PM
3:00 PM	イグアスの滝見学、昼食	食堂カズコ訪問	荷造り		成田到着	3:00 PM
4:00 PM	バスで街に向かう	玉城さん親戚宅訪問				4:00 PM
5:00 PM	空港にて、イグアス出発					5:00 PM
6:00 PM	サンパウロ到着	イタリリ出発	アパート出発		成田出発	6:00 PM
7:00 PM						7:00 PM
8:00 PM	夕食	サントスにて最後の夕食会	空港に到着。皆さんと再会を誓い、お別れ			8:00 PM
9:00 PM			サンパウロ出発			9:00 PM
10:00 PM					沖縄到着	10:00 PM
11:00 PM					解散式	11:00 PM
12:00 AM						12:00 AM

研修報告書等
玉城 悠

玉城悠

1月9日(水) 研修1日目 沖縄 那覇 ~ アメリカ アトランタ

リクライニングの効かない椅子に縛り付けられ11時間、ロングフライトの飛行機は映画を見たり、寝たり、ご飯食べたりと意外と忙しい。ご飯を食べて寝てまたご飯。何度目かの寝起きに熱々のチーズトルティーヤとハーゲンダッツのカチコチのアイスが出てきた。温度差が凄い。カチコチでスプーンが刺さらない。スプーンと私は何もできず、一緒に棒立ちしていた。座っていたが...少し解けるのを待つことにし瞼を閉じた。次に目を開けたらそれはバニラシェイクになっていた。

無事アトランタ到着し、落ち着いたからか便意が襲ってきた。すぐさまトイレにダッシュし運よく一つ空いていた。座ると便座が高すぎて爪先立ちで踏ん張る。アメリカで足が短いと何かと不便だ、漢字のごとく、この旅で最初に日本を離れたと感じた瞬間だった。

研修1日目終了

1月10日(木)研修2日目 ブラジル サンパウロ ~ サントス

サンパウロに向かう飛行機の中、アメリカ人のサービス、もしくは日本人以外のサービスには喜怒哀楽が見られる。キャビンアテンダントが乗客の荷物をあげるのに、めんどくさそうな顔をする。ほかの場面では凄く愛嬌良く笑う。日本人の場合は常に笑顔だし誰に対しても丁寧だ。感情を表に出さず接客する。外国では従業員のほうが偉そうだ。こちらも声をかけるタイミングを見払わなければならない。サンパウロ着陸寸前、窓の下には緑力と繁った小さい小山が果てまで続き、やがて空とぶつかっていた。たまの山々の間に茶色い家、集落が見えてきた。少し離れた所には町も見える。人里離れ山の上に家を建て住んでる人々の生活がどういふものなのか気になる。空港のゲートをくぐると恩納村人会の皆様が出迎えてくれた。顔は凄く馴染みある顔だった。津嘉山敏夫さんがサントスまで送ってくれた。うちなーぐちを話しているのかポルトガル語を話しているのかよくわからなかった。もっとうちなーぐち使わなければと思った。津嘉山敏夫さんの仕事場を拝見した。不動産業を営み現在建設中のアパートを見せてもらった。白をベースとした建物で清潔感がある。他の家々は赤レンガが多くコンクリートを塗るお金がない場合レンガそのまま建てておく。その中で白は高級感も感じさせた。建設現場にはなぜか犬が工事に使う砂の上であくびを掻いていた。建設中の設計技師は泉さん。彼は20年ぐらい10年だったかな。岐阜で出稼ぎに行っていたが、東北の地震による被害によってブラジルに帰国した。顔は読谷でやちむんを焼

いてそんなウチナンチュの顔だ。ふと見上げると最上階の4階のへりに足をブラブラさせてこちらを見ているおじさんがいた。少女がブランコにのって遊ぶように足だけブラブラさせていた。何してんだろう？ていうか工作中じゃないのか？とツッコミを心の中に入れてたりして私たちはその場を後にした。アパートはすでに売りに出されていた。ブラジルにいるウチナンチュが商売上手なのは失う事を恐れないからか。沖縄にいる沖縄人が大体経済的には本土や外国勢にやられているのは沖縄本土を守る意識が強く攻めに転じてないからか。開拓移民の先輩がたは何もなかったジャングルを切り開き種を植え実を結ぶ。壮絶な重労働だったにも関わらず懐かしむように笑って思い出話を語っていた。0から1を作り出してきた人々は強い。少し遅い昼飯を食った。飯というより肉だ。シュラスコ？というブラジルの食事スタイルで焼かれた肉をボーイさんが席に回ってきて食べたい分だけそぎ落とす。料理の種類を選ぶように肉の部位を選ぶ。脇見せずにひたすら肉を食らう。たまにチキンや羊、豚肉で休憩するが牛肉がこれでもかと回ってくる。カイピリーニャが甘くライムの風味が効いてうまいが度数が高くて酔った。そこには砂糖の海が。表面は塩のみの味付けで炭の香ばしさと塩分で肉本来の味を楽しむ。ご飯の後、一度サントスにある津嘉山敏夫さんの部屋に行き、荷物を置いて久しぶりのシャワーを浴び仮眠をとった。沖縄を離れて何日経ったのか時差で良く分からないが、何日振りかのベットは体がマットに沈み込んでいくかのように眠りに溶け落ちた。20時に敏夫さんが迎えにきて近くのビーチに歩いて行った。息子の奥さんのお父さんハリさん？も一緒に海の家のようなビーチサイドでビールを沢山飲んだ。今は夏休みとのことで、ビーチは賑やかだ。スポーツをする若者、酒を飲んでる人、エクササイズをする団体、犬の散歩も多かった。ブラジルでは野良犬でも蹴っ飛ばしたりしたら捕まるそうだ。犬に優しい国だ。猫はまだ見たこと無い。飲みながら談笑していると泉さんから敏夫さんに連絡が入った。私たちが建設現場を見学した1時間後に4階から従業員が落ちたそうだ。なぜか無傷だそうだ。これがブラジル人のフィジカルの強さなのか？サッカーも強いはずである。遅れてきた津嘉山則夫さんは自転車で来ていた。元気だ、みんなほんとに元気だ。環境が人を作るというがブラジルに住んでるおじさんお婆さんはとても元気だ。隣に座っていた姉ちゃんも自転車で来ていた。名前はダイさん。男らしい名前だが銀行員で32歳ごろ、笑顔がチャーミングでおでこに薄くしわが寄ってる姉さん。ショートカットのこげ茶の髪をなびかせて笑いながらしょっちゅうウィンクしてくる。外人にしては上手くない両目をつぶりそうなウィンクに、俺の事が好きなのか？とおもったがただ単に凄くフレンドリーだった。これがブラジルか。勘違いをしていた私を置いて彼女は友達迎えに行くから自分の自転車を則夫さんの自転車と一緒に鍵をかけてどこかに行ってしまった。則夫さんを帰さず、お持ち帰りする気なのか？旅は道ずれというやつなのか？やがて夜の空はあれ、浜辺の砂が風に舞い砂交じりのフライドポテトを食べた。ざらついた苦い砂を噛むとねじ伏せられた正直さが骨身に染みる。我々は帰路に就いた。則夫さんは自転車をどうにか外していた。その後私たちは分かれた。

研修2日目の終わり。実際1日目の終わりがどこか分からない。

1月11日(金) 研修3日目 サントス2日目

William Tomohiro Tsukazan 息子さんのアパートの隣にある部屋に滞在させてもらった。朝 4 時に目が覚めた。南国のブラジルといっても夜は以外と冷んやりしている。寒くて扇風機を最弱にしたが、あまり弱くならないブラジルの扇風機。時差ボケが残る中 2 度寝をしてしまった。気づけば朝、良直に起こされた。朝食にマチャグワァーのような小さな商店に食いにいった。そこにパンが売られてて、その店でチーズとハムを焼いて挟んでくれた。オレンジジュースは 30 秒前に屈強なブラジル兄さんが丸ごと絞ってくれたものだ。まさに「俺のオレンジジュース」と呼びたかった。コーヒーも強烈な苦みのジャブ、砂糖たっぷりな甘さのストレート。ワンツーパンチが効いて一気に目が醒めた。その後、敏夫さんの建設中のアパートに行ったら、犬がいた。犬を軽い気持ちで可愛がったらずっと離れず最終的に犯されそうになった、右足にしがみつきしきりに腰を振っている。現場の従業員達が笑っていた。ズボンには何かしっとりした感じの温もりがあった。ブラジルは地震が少ないから柱は日本と比べ細い作りになっていた。次に空き缶リサイクル工場を見学、サントスを中心に 5 つの町から集まった資源ごみ、四角にプレスしてサンパウロに運ぶ、運ぶトラックはベンツだ。その次はサッシ工場、その次はアサイ加工工場。ブラジル人も結構働く。そしてまた移動した。

道中、バナナの葉をかき分けると突如現れた集落、初め住み始めたのは誰か知らないが、人口は膨らみ、家はトタンからレンガに変わり怪しい雰囲気のある場所が横に出てきた。スラム街だった。国の土地に不法建築した手作りのレンガの家々が 2 年ですっかり一つの集落になるという。そこまで行くと、国はもう手出しできない。そんなことが起きている国。日本とは異なる。そんなところを通り過ぎ敏夫さんの息子が見ているイベント会場に足を運んだ。記念日に場所貸しするそうでブラジルでは、15 歳の女性の誕生日が大事なイベントだそう。津嘉山さんの会場も 4 割は 15 歳のお祝いとのこと、6 割は結婚式。日本でいう 13 祝いのようだ。にしてもブラジリアンの 15 歳は垢抜け過ぎてまるで成人式のような。その後敏夫さんの行きつけのゴルフコースに行った。サントスのゴルフ場は名護の青年の家の匂いがした。ゴルフやる人が全然いなかった。日が沈むと県人会を中心に作られた会館でサッカーをした。メンバーはサントスにすむ日系人を中心にブラジル人、ハーフ色々だ。サッカーは人種を選ばず。良いスポーツだ。ネイマールを小さいころ教えたことがあるという先生がいた。日系人の先生だ。見た目は日本人だし何故そこからネイマールが出たのか分からない。小さいころは皆うまい。日本人も対等に、もしくはそれ以上に(フットサルのチームで日系チームは強かったそうだし、そのメンバーにはサントス選抜などもいた)子供の頃は活躍している。その後なぜ世界で活躍できないのだろうか？現在世界で活躍してる日本人プロスポーツ選手も多くなってきたがもっと活躍しても良いと思う。そう思うことも日本

が劣っているという洗脳に支配されているのかもしれない。女子サッカー、野球、新体操、テニス、水泳、柔道、レスリング、スケート、陸上もリレー等、世界を相手にメダルを取っている。話がそれてしまったが皆快く受け入れてくれた。少し笑いものにもされてた気がするが、美味しい話である。父が沖縄で母がブラジルのサッカー少女ミキはセルビアでプロサッカー選手をしている。笑った時の真っ白に輝く笑顔が私の心を照らした。楽しそうにプレーする姿はサッカーを楽しむことに純粹で、可愛く見せようとか、うまく立ち回ろうなど無駄な物が削ぎ落された姿だった。そんな姿に見とれてしまった。研修3日目終了

1月12日(土) 研修4日目 サントス3日目

朝散歩 海辺のビキニを目当てに行ったが、朝から散歩するのはオジーオバーがメインだった、たしかに沖縄でも若者が歩け歩けするはずがない、しかも土曜日の朝に。きっとイケてる姉さんはベッドでまだ寝てるのだろう。まだ8時というのに頭の上からじりじりと照らす太陽。ブラジル人も予想とは反して朝が早かった。7時から現場に入る建設の兄さんがいた、17時まで昼休憩1時間だ。当初のイメージとは違うブラジル人の勤務時間の長さに驚く。アルミサッシ工場の皆はキビキビ働いていた。北の方はもっとゆっくりしているらしい。みんなちゃんと働いている。朝の挨拶ボンジリーアをして泉さんと朝のファーマーズマーケット、ブラジルではフィーレという名前の朝市に行った。色とりどりの野菜や果物が並べられ全長500mも連なる売店。精肉や海産物もあり臭いも良い感じで漂ってくる。そこの一見にパスティルという餃子の皮を長方形にしその中にミンチとチーズを入れてあげる料理を食べた。姉が昔餃子の皮にハムとチーズを入れてあげてくれたのを思い出した。想像しやすい味だ。津嘉山則夫さんの弟が工場を持っておりその後見学にお邪魔した。

弟さんは則夫さんより日本語が出てこなくなってきた。息子さんの2世さんは見た目はもう完全にブラジル人だった。「こんにちは」は話せたけどほとんど話せない。若い世代のウチナンチュと会話するには共通言語が必須になるだろう。言葉が通じないと話すのが億劫になる。話せず気まずい雰囲気になる身内に会いに地球の反対側まで来て楽しめるだろうか。1世2世が亡くなり血の繋がりが薄くなった今、話さなくても伝わる家族の絆は無くなり始めている。うちな一ぐちを共通して話せばいいけど沖縄にいても話せないし、海外ならなおさら話せないかもしれない。そんなことを思ってしまった。2世の子供たちと話したのはこんにちはと帰り際のオブリガードの二言だけだった。

午後に先日フットサルをした県人会の交流施設の2階で三線交流を開いてくれた。もう仕事を引退している方々だったが皆元気だった。その中に戦後第1回青年開発隊の移民でブラジルに渡った東恩納さんがいた。三線練習の合間に移民当初の話を聞いた。もらえた土地は農業を始めれる状態ではなく一面ジャングルで東恩納さんはだまされたと言っていた。そこから大変な苦勞をし、お金をためて、街に繰り出し商売を始めた。田舎に残り開拓、畑を続けた人もいるそうで、移民にきた人にも色々なやり方で暮らしてきたそうだ。今の沖縄

は基地反対ばかりして良くなっていこうという気はあるのかと質問された。外から沖縄を見たら何で反対してるのか分からないと東恩納さんは言った。東恩納さんが日本に出稼ぎに行った時、日本人には物足りなさを感じたそうだ。やってやろうという気持ちが感じられないと。現在の沖縄県民、日本国民はハングリー精神を感じないという。横では休憩を終えたオバーが歌いながら手をたたき、首を振り歌うオジーさん。日本語は忘れかけているのに唄はすらすらと出てくると笑っていた。スポーツと唄は手取り早く心を通わすツールになる。私も一緒に歌ってみた。研修 4 日目終了

1 月 13 日(日) 研修 5 日目 サンパウロ サントス ~ ボリビア サンタクルス ~ コロニア オキナワ

朝 6 時発予定が津嘉山さんが来ない。ここに来て南米タイムを發揮してきたかとそわそわし始めたころ、津嘉山さん到着。荷物を車に詰め込みいざボリビア。GOLairline に乗り込む俺ら 2 人、目の前にはどこか懐かしいアジア系の顔が。背中には KARIYUSHI の文字が。沖縄移民者の子孫ではないかと思いをかけてみる。日本語、うちな一口、ポルトガル語、最初は全く噛み合わなくて何話せば良いのかわからなかったけどあとから日本語で通じた。彼らもボリビアに行くそうだ。ニーセーターフェスティバルという南米の沖縄系移民の子孫同士の交流ツアーに参加するそうだ。私達も参加したかったが、年齢制限が通学性~大学生の年齢までだった。

話は機内に戻り、私達は機内最後部から 2 列目の 32D.E 席だ。両側の肘置きの中にケツをねじ込む。うっかりシートベルトを下敷きにしてしまうとお腹の前まで持ってくるのは一苦勞である。なんとか収納し終えたけつに体重を預けふと顔をあげると機首の方からブラジル美人のキャビンアテンダントがモデル歩きをしてくる。右手には今季新作モデルのフマキラー。自信に満ちた笑顔と殺虫剤を振り撒く、煙が神々しさを演出し、その絶景に目が震んだ。ゴホゴホっ、胸も苦しくなる美しさだった。行列のできるトイレがそこにはあった。トイレ近いからしほ一だいと思ったのが安易だった事に離陸 45 分後に気付く。行列と香織の特典付きシートだ。空港のゲートを出ると大きな横断幕と沢山の若者、県系高校生に迎えられた。こんなに沢山の出迎えかと 1 歩あとずさりをしてしまいそうだったが、彼らはニーセーターイベント参加者の出迎えだった。南米 4 カ国ぐらいの県系移民国から年に一度エイサーを踊ったりする交流が 1 週間通して行われる。その大会が今年はボリビアで行われるようでブラジルから参加者のメンバーと同じ飛行機だったのだ。我々は団体の隅にいる我々の事を出迎えてくれた人々を見つけ歩み寄った。5 名来てくれた。遠くまでありがとう。佐渡山さん、津嘉山さん、やよい、あかね、かいと 3 兄弟、そしてペルーのニーセーター参加者。皆ウチナンチュ顔だ。ボリビアも少しアジアに近い顔をしている。車に乗り込む。トヨタラウンドクルーザーが三台。皆金持ちかとボリビア滞在の県系の豊かさを感じさ

せた。

ボリビアに焼肉のタレをください。そう思ったのはボリビアについて初めての昼食時、鉄板の上には所狭しと盛られた焼き肉の山、ソーセージ、腸、心臓、肉、肉、肉。全て塩味のみだ。サラダにかけた酢と油と醤油で何とか味を変化させ一緒に食らう。自分が肉食動物になった気分だ。肉本来の味を堪能するが大量の肉を塩味だけで食うのはいささか退屈さを感じた。塩味のみだからこそボリビアではこんなに大量に食うのかもしれないが。生姜焼きが恋しくなった。腹ごしらえがすみコロニアオキナワに向かう。見渡す限りの平地が空と一直線に境目を作る。地平線を見るのは沖縄では不可能で南米の広さを感じさせた。ひたすらに真っ直ぐな一本道を進むと小さな橋がありその先のでっかい横断幕（めんそーれおきなわ）の文字が。Hotel につくと気の良い白めの受付おばさん。部屋に荷物を置いたら佐渡山さんは畑に戻った。夜はすぐ近くの Poole ってレストランでポヨという鶏のご飯を食べてね。朝は適当に近くのまちゃーぐあーで済ましてと残しいってしまった。すぐさま三奈美さんに就いた連絡をしご飯食べましょうと誘うと快く引き受けてくれた。直也も一緒に晩飯を食った。ご飯は言われてた通り皆でポヨを食った。チキン丸焼きのやつとチャーハン薄味とサラダのワンプレートだ。久々に会うみなみさんはどこか優しくなった気がした。その場に行った恩納村出身のバンチョーさん、糸満の城間さん、現地人の皆さんと 12 時まで飲んで三線して楽しんだ。研修 5 日目終了

1 月 14 日(月) 研修 6 日目 ボリビア コロニアオキナワ 2 日目

今日はお世話になっている佐渡山さんの仕事現場を回る旅に出た。旅と言っていいほど航大に広がる台地は、全て見終わる頃には車のライトがついていた。土地を 50 坪開拓移民は国からもらったがそこはジャングルで畑としては使い物にならなかった。そこから開拓し畑にし、金ができるとまた土地を買い広げる。時には借金もした。「成功した人は皆ブラジルとかに出て行った。残った人は皆貧乏だよ」そう言って笑っていたがブラジルにいる日系人よりはるかに金持ちに見えた。あちこちの畑に野生のダチョウ、カピバラが出た。日本では動物園で見る可愛いがられる対象だがボリビアでは畑の大豆や米を食う害獣として見られている。自分の都合で可愛がったり、憎んだりする人間は勝手だなと思った。コロニアオキナワには恩納村の出身者の家庭は 22 所帯あると佐渡山さんは言っていた。お腹が空いたので干し肉のチャーハンと目玉焼き、キャッサバ、サラダ、焼きバナナのランチを食べた。前菜に牛のテールスープっぽいのがうまかった。旦那さんが沖縄県人で奥さんがボリビア人の素敵な夫婦で経営していた。その後佐渡山さんの家に 5000 万の現金一括購入したコンバインを見に行ったら。タイヤだけでも自分より大きいコンバインに腰を抜かしそうになった。規模がでかいと改めて思い、羨ましく思った。沖縄にもこんな広く安い土地があればと。しかしコロニアオキナワの若い子も都心に出て畑を継がない青年もいるという。日本同様

に事業継承の問題が深刻そうだ。都心に出た若者達は都会になじみそこで育った子は日本語もたどたどしく話すという。コロニアオキナワという限られたスペースだからこそ日本語が残っているのか。外の世界と繋がれば繋がるほど独自の文化は消えていくものなのではないか。

1月15日(火) 研修7日目 ポリビア3日目

風が雨を呼んできた。ベランダに干したパンツが隣の家の窓枠に引っ掛かって濡れていた。津嘉山慎吾さんと出掛けた。牧場に行ったら牛の皮が牧場に干されていた。以前は売っていたが今は買い手がいないのか売ってないそうだ。今日も朝から畑周りだ。魚を食べた。ボラかコイと言っていたがとりあえずでかくて炭火焼きされていた。油が乗っていて一人で食べ終わると胃もたれするほどだった。第一コロニアに帰る途中にドイツ村を見た。ドイツ移民も多くコロニアを作ってるそうだ。宗教を厳しく守ってるドイツ人の集落も多く、彼らは車を持たず人里離れ格好も決まった格好をしている。男はジーンズ生地をつなぎに長袖の縦じまシャツ。女性は教会のマリア様系の格好で全身黒。トラクターもタイヤのゴムを外しカニタイヤと慎吾さんは言っていたがそれで田を耕しているらしい。見たら威圧感がありいつもみたいに写真を撮れなかった。慎吾さんは恩納村旗が欲しいと言っていた。歓迎するとき旗もって迎えたいとこぼしていた。沖縄帰ったら送ってやりたい。

1月16日(水) 研修8日目 ポリビア4日目

朝は日ボに行って1世2世のオジーオーバーとデイサービスを受けた。畑を開拓した辛い日々を耐え抜いてきただけあって皆年の割に明るく元気で笑顔が絶えない。日本語もほとんどの方が話せてポリビアの先輩方は凄いなと思った。ほんとは来たいけど第一移住地区から第三移住地区までの道のりは道が悪く1時間弱程かる距離なので足腰が痛くなるから来れないという話も聞いた。来ている人でも雨降って道が悪いといけないこともあるそうだ。コンクリートの道を作る計画はずいぶん前からあるがなかなか実行されないそうだ。

デイサービスは音源CD欲しい。皆で歌ったり、体操の曲など。沖縄の曲が好ましいがなければ日本の唄でも全く構わないだろう。実際日本で使ってるデイサービスの曲を送ってあげよう!!安里さなえさん。うちなーんちゅ大会にくると言っていたお婆さんがいた。牧場の蟻塚が何か絵になる。緑のキャンバスにチョコをぽつぽつ置いているかんじで綺麗な景色が広がる。真栄城一夫さんの車の中でシェイクされながらオフロードをぶっ走る。車内は80年代の名曲ラブソングのアルバムがリピートで流れている。運転とのギャップが半端ない。昔あの子がカラオケで歌ってたのを思い出すと会いたくなかった。田んぼが嘉手納基地の3倍…でかい。3ヶ月の激務であとは休み…田んぼの場合。

1月17日(木) 研修9日目 ポリビア5日目

昨夜の飲み過ぎでバタンキューしたまま朝を迎えていた。意外と早く7時には目が覚めた。日入りの速さが南米にいるのだなと毎度確認させてくれる。胃もたれを残したパンツ一丁の目覚めはさすがしきのかけらも見当たらなかったが、とにかく目覚めた。今日は安里家にお世話になる日だ。皆忙しい中案内してくれて本当に感謝しているのだが我々のやりたいこととずれた思いやりがなんとももどかしく、事前に南米に行く目的と趣旨を伝えておけばよかったと後悔した。ついてから何したいと聞いてくれるが。移動の日程の事も考えるとその方がここにいるウチナンチュも当日のお願いより対応に負担がかからないはずだ。あさ、先日デイサービスのボランティアスタッフでお会いしたシズエさんからマンゴーの差し入れがあった。コロンビアオキナワでは落ちて腐らすほどマンゴーがなっている。しかもこれがめちゃ甘いのだ。この話を先日シズエさんから聞き驚いて羨ましそうにすると早速ホテルにもってきてくれた。行動の速さに感動した。有難く頂戴し安里家にもっていった。ボリビア人は日系人の使用人になり生活している。農家の実行係、家のお手伝いさん、など私があった日系人の人達は皆ボリビア人を畑で2~3名、家で一人と雇っていた。元からいる原住民が後から来た移民に使われている現状は不思議だった。もちろん日系移民の資料館を今日見て来たが開拓者達は死を隣合わせに厳しい世界を歩いて来た。その後努力が実り今の栄華がある。ボリビア人は努力をしない(もちろん全てのボリビア人がそうとは言わない今私が見てきたり聞いてきたりしたボリビア人は皆そうだった)

うるま病について資料館で学んだ。

ボリビアに第一移民として入った人々の中で流行った原因不明の病気の通称、元気で病気知らずばい人がかかってなくなったと言われる見解はそんな人が生き延びたと思われている原因は未だ不明。日望協会資料博物館より。現在の頃に沖縄移住1国するまでに2回の21日の引っ越しがある。1回目は謎の疫病うるま病の流行による移住地の変更。2回目は川の氾濫が多かったために移動を余儀なくされた。

朝9時半に朝時に訪問家敷地内の門から玄関は遠くごめんくださいと普通の声で言っても家にいる人は気づかない位敷地が広かった。大声でごめんくださいと言うと中から南さんが出てきた。なおやたちはお父さんと畑に行っていた。南さんひとりでいることが尚更広さを強調していた。庭は小規模校の小学校のグラウンドほどの広さがありそうだ。しばらく今日は何をするかの話をして隣近所のマキさんちに遊びに行った。マキさんちに行くとマキさんも1人で家にいた。ここでは女性の方は家にいることが多い。男は畑に行き女は家で待つ。しかも家にはお手伝いさんがいると言うことで主婦は結構暇そうだ。日本の主婦に言ったら羨ましがられそう。まきさんちにお庭にはペットとして小さいワニが10匹位いた。以前10匹ほど逃走したそうだ。国が違くと世界も相当変わるもんだ。私はワニをつかんでみた。びびった。首をつかんだ瞬間マキさんはもっと首絞めて首を絞めてと叫んだ。小さいといえども歯は強靱で噛まれたらひとたまりもないだろう。しかしワニはおとなしかった。甘えている子猫のように喉を鳴らして身動きを取れずぶら下がっていた。ボリビア在住の日

系人は三段銃を打ち込み、死んだか確認もしないまま濁って見えない池に飛び込んで捕まえていたようだ。しかし大人になり怖さを知ることによって今もできないと言っていた。私もずいぶん歳をとってしまったようだ。こんな小さなペットのワニに恐れた。

1月18日(金) 研修10日目 ポリビア6日目

朝突然の訪問に比嘉徹さん、コーヒーを飲み自宅に招いてくれた。奥様の特製のドリンクは赤色の泡だってる絞り汁でニンニク、生姜、Beats、その他不明で、寝起きの僕には強烈な一撃。小さいチワワ多数、6匹蜂の巣、ねこ、動物多数、靴も多数、帽子も多数で凄かった。マンゴーも食った。狸々蠅が台所で集会を行っていた。ハエくつつくの置きたくなるがこの人はあっても使わないだろうか？食堂もハエが多くて姦しいが皆手で永遠と追い払っている。まさのりさん渡久地ハルミさん、おんな広報誌は漢字で読めないからもういいよってなったらしい。送って貰うのもたいへんだからと。

運転シートベルトしない。昼食カレー食べ、釣り堀へ、良直が座ると椅子がちっちゃくて潰れる。ゴロン、練り餌で針を隠し池に投げる。泥茶色の池に波紋が広がり餌は落ちて行く。直ぐに何も無い池を見つめるだけになった。ウキがないから。親爺さんはゴルフに行ってしまった。

4種類程の異なった鳥の鳴き声が四方八方から聞こえてくる。正確なリズムを少しずつずらし、その声は奥行きを感じる。風が肌を撫でて過ぎてゆく。強過ぎず、弱過ぎず、たまに方向を変えたり、強弱したり、天然のマッサージ。あまりに気分がいいもんで、物思いに更け用とじっと座って見るが、蚊が多くてそんな気も潰してしまう。蚊が多い所には思想家はいないだろう。じっとしていたら、ブスリと刺され痒さに気が持っていかれる。暑い国は楽観的で深く考えないと言われるのもしょうがないかもしれない。渡久地家に帰り昼の残りのカレーを食べる。帰ったらカレールーを送ってあげよう。夜三線愛好会に参加する。暇で外に出て散歩して見る。ポリビア人の男性しか歩いてなくて、流石にコロニアオキナワとて夜10時過ぎに夜ひとりで歩くのは怖い。会館前に戻り明るいところで外を感じる。寂しくなると人恋しくなる。人恋しいから寂しいのか。コロニアオキナワ最後の夜。いつもより肌寒く感じた。バイク乗りがウィリー練習している。三線聞くのも飽きたので隣のカラオケに行った。渡久地まさのりさんと三男のダン君？が三線終わるまでカラオケで呑んでると言っていたから一足先に飲みに行くことにした。マーキー姉さん、日本から来たお姉さん、ジェシさんは見た目ポリビア人で綺麗な姉さんと一緒に飲んだ。客は3名だけ…経営状況はあまり考えない。それがポリビアスタイルだ。たぶん…席に着いたら皆は快く迎えてくれて、テキーラショットで駆けつけ一气。そのあと火をつけたやつをショットで一气。その後テキーラ無くなったから商店に買いに行く。買うのは割り勘だ。

1月19日(土) 研修11日目 ポリビア・サンタクルス移動日

朝、津嘉山アキラさん、ブラジルの津嘉山敏夫さんの従兄弟が迎えに来てくれて、アキラさんのお父さん朝そんさん(チョウソン)が南おんなの人誘ってポリビアに来たという。魚の

養殖場を見た。レンガ屋根の歪みがジブリ感を彷彿とさせる

1月20日(土) 研修12日目 ポリビア・サンタクルス2日目

日曜日 サンタクルス、五つ星ホテルに宿泊、1人一部屋で豪華待遇、値段は五つ星と思える感覚だったが内容は特にそう感じなかった。鍵はあんまりうまく開かないし朝食にホットキスの針が入っていた。朝集合時間が分からず玄関で1時間待機する。時間を決めて、連絡先も聞いとけばと後悔。朝あきらさんと出てお土産屋さん散策、赤煉瓦で作られた建物と建物の間を通る。片側は所狭しと停められた車、勝手に駐車を手伝う兄さんはチップが目当てだ。チップあげなきゃ泥棒されちゃう。街には泥棒が多い。でも昼間カメラを出して歩いていたが意外と大丈夫そうだった。絵を売っている人もいる。中々芸術的だ。絵の価値は有名人やちゃんとした店が売ることによって上がる。絵だけの価値はそこまで評価されてなさそうだ。お土産屋さんで毛糸の帽子を買った。靴下も買った。昼御飯はアキラさんの町の家で食べた。奥さんは食堂をやってるだけあってご飯が美味しかった。肉のミンチを平たくし挙げた奴はポリビアには珍しく柔らかな食感だった。ジーマーミーのスープは豆を一日水に漬けて込みミキサーにかけて肉とマカロニと煮込む。豆を濾したらもっと滑らかなスープができて美味そうだ。アキラさん家も何か一度事がある気がする。店の裏で繋がっている家族の場所。息子さんは大学卒業の試験で大変しているそうだ。大学やめて母の食堂を継ぐと言っていたそうだが母は難儀させたくないの辞めとけとさどした。私も親の料理屋を引き継いだ。どうしてだろう。

1月21日(月) 研修13日目 ポリビア9日目サンパウロへ移動日

サンパウロ帰ってきた。ついに慣れ親しんだポリビアを離れる。外山さんがホテルに迎えに来てくれた。出発2時間前に空港到着したが荷物預けるのが相当時間かかりギリギリで搭乗ゲートくぐった。たまたま隣で荷物預手続きしてたポリビア人をお父さんにもつ美女が通訳してくれた。やすおさんとあきらさんは長い間最後僕たちが見えなくなるまで送ってくれた本当にありがとう。この恩返しは絶対にしないといけない。サンパウロで津嘉山敏夫さんに合流、会った瞬間にホッと安心した。ブラジルに帰ってきたという安堵感、日本から来た時はビクビクだったのに。敏夫さんと住み慣れた街サントスに向かう。ブラジル人の露出の多い洋服に嬉しくなった。そいえばポリビアから帰ってきて変化があった。ブラジルがきれいと感じたのだった。沖縄からブラジルに来た時は逆に少し汚いと思ってたが、ポリビアからブラジルに着いたら、綺麗と言う感覚に変化していた。環境が人を変えた。サントスに着いたら山の下のレストランでビールを飲みながらおつまみをいただいた。カニのチーズ焼きみたいなやつが出てきたけど良直はアレルギーで食べれなく仕方なく私が彼の分まで頂いた。ラッキー。移民を題材にしている日本映画「春と夏」を見たほうが良いと敏夫さんが教えてくれた。サントスまでの道中、空にはスラム街の少年達がタコを飛ばしていた。敏夫さんが昔の話をしてくれた。日本が世界大戦後、日本が勝ったか負けたかのニュースが

正確に入らず、日系人同士で勝ち組派と負け組派に別れいがみ合った。同じ日本人でいがみ合ったというのが悲しかった。高速の横でサッカーをしてる青年たちがいた。ボールが道路に出たら死ぬかもしれないのに。流石ブラジルだ。

1月22日(火) 研修14日目 カンポグランデ、初日

朝から遅れ続きだ。南米らしくなってきた。サントスから国内線飛行機に向かう津嘉山車は120キロで疾走していた。ブレーキと急発進の揺れで揺かごかのごとく瞼が重くなる。朝から津嘉山さんが約束の7時を過ぎ30分後いよいよどうするかと考え始めた時ちょうど迎えにきた。ヒーローはいつも遅刻魔だ。無事チェックインも済み、飛行機に乗り込む直前、原因不明の飛行機変更で隣の飛行機に乗り込んだ。中に座っていた人達もみんな出て乗り直した。1時間の遅れだった。無事カンポグランデの空港に着いたとき優しく迎えてくれた。沖縄県人会の皆様先、崎浜秀彦さん、宮里和直さん、源河さん山内よしこさん、よしこさんの孫まりこさんが出迎えてくれた。それから空港出たらまず道路が綺麗で驚いた。あと軍隊の基地が多くて独特な力があつた。山内美子さんのお世話になる家に車を置き。日本人オーナーのレストランに昼食を食べに行った。昼寝3時までして、源河さんの家に源河さんと比屋根を迎えに行った。山内幸秀さん運転する車が両津勘吉に出てくる本田みたい焦ったけどウケた。そのあと源河さんのそばを持って田舎の仲間さん家に行った。仲間さん達は昔ブラジルにいた時に親戚のおじさんの家とすごく似ていた。同じ場所かと錯覚してしまうほど暮らしぶりはその当時と変わらずのままだった。移民当初の時代はブラジルの農家あんな感じだったのかもしれない。犬がいっぱいいた。ホームステイ先のお父さん山内さんは未だあの暮らしが恋しいらしい。でも奥様の佳子さんがガジャン嫌いだそうで街に引っ越している。夕方家に帰りお父さんと軽くつまみながらビールウイスキーを飲んだ。7時の約束までと言うことで始まった晩酌は8時前まで続いた。嘉手苺よしおさんオリオンビール会社に勤めていた。今はもう引退してるかもしれない。石原せいこうさん、海から砂をとって建築資材として売っていた。元県知事の西銘さんと一緒によく歩いていたそうだ。山田宗の大城聡さん。和で山渡そうと言うホテルをやっており元はブラジル2世の人。長男は残って次男のアキラさんが日本に戻ったお父さんが沖縄に遊びに行った時に11日間も宿泊してたけど一銭も取らなかったのだからもうアキラの所には泊まらないと笑って言っていた。この3名の知人の話を永遠と聞かされた繰り返しヘビーローテーション。だいぶ遅れて約束のレストランにみんなでご飯食べに行きましたがまさかの私たちが1番でした。源河さんのほうは9時前に着きました。これが南米タイムか。サンチェスさんにも会いました。沖縄愛が強い方で、県費留学生などの募集にも応募したが、ブラジル人という事で、全て断られてしまっている。彼を恩納村の研修生として沖縄に呼ぶことができれば今後のカンポグランデと恩納村沖縄の交流も安泰ではないかと思えます。藻の研究をしているそう

だ。

1月23日(水) 研修15日目 カンボグランデ2日目

朝家の電話で起きた。山内さんのお家には良く電話がくる。イタ電の場合もよくあるそう。ちょうどいい目覚ましになった。朝食はパンにハム卵と洋食な感じで甘いコーヒーが出てきた。ブラジルっぽいぜ。コーヒーとおはよう。パンはもちろんフランスパン。朝はゆっくりして10時ごろ出掛けた。カンボグランデは街の道路はきれいに四角四角区切られていてよく道に迷う。今日も源河きみよさんのお宅に行こうとしたら迷った。ちなみに昨日も…なんとか家着いたら比屋根を迎えて公園に行った公園にはヤシの実ジュース飲んだ。お姉さんがギロチンの様にヤシの実を切りストローを刺した。ヤシの実片手に軽く散歩してる途中カピパラを発見した。ノロマな姿をよく見るが水に入ると一転素早かった。その公園の横に巨大に聳え立つ繭みたいなドームが懇々と建っていた。開発途中で政府の役人が金を盗んだから途中で終わっているそう。その役人さんはどうなったのか気になるから私たちはきれいなデパートに入った。初めてお金を変えたドルからブラジルのレアルに変えた。今まで1銭もお金を使わなかったら本当に頭が下がりました。急なデパートでバーガーキングのランチをしデザートにケーキとコーヒーをいただきデパートを後にした。途中でお土産にパンを買い三線の先生の島田先生行った。先生は長年ブラジルで三線を教えてきた方で今は歩くのがやっとなのですがジューっと演奏に耳を傾ける姿は大先生に見えましたが寝ているようにも見えた。クリスティナさんも後から合流し少し話して退散しました。帰ったら夕食までしばらく時間があつたので山内のお父さんと一杯やった。ビール4本ほどのみ私がウイスキーを飲みました。あんたはゴルフやるかと聞かれ、やりますと答えたら浦崎さんわかるか？と聞かれ、プロの方ですか？と聞き返すと、違うとお父さん答えました。お父さんの友達で沖縄にゴルフやる人がいるんだがと。知るはずがなかったが楽しかった。夜7時30分頃夕食会場に集合だったので7時45分に家を出ました。お父さんは家に残り先に寝ると来なかった。お父さんは何やら気に入らない奴がいるらしく、そいつは人の事の悪い所を皆に言いふらすと、僕に悪口を言っていた。どっちもどっちだ。夕食会場には25名弱の県人会が集まってくれた。平均年齢は68ぐらい。皆カラオケが大好きで、古い民謡がカンボグランデの街に響いた。皆さんわざわざ集まってくれて嬉しかった。

1月24日(木) 研修16日目 カンボグランデ3日目

パンタナール、それは巨大な沼。カンボグランデ市街地より250km西に、ボリビア方面に行くとも無数の水溜りが見えてくる。その敷地面積は日本の半分ほどの広さと言われている。ブラジル、ボリビア、パラグアイの国境を跨ぐ。近くからはあまり分からないが飛行機で観ると分かりやすいと言われるほどだ。ボリビアに続く道を西にまっすぐ、麻薬ロードとも言われ、毎週のごとく、パラグアイ、ボリビアより麻薬が密輸されている。新聞に出るのが毎週1.2回としたら、毎日どこかで運ばれてるかもしれない。そんな道をまだ暗いうちから走

っていた。県人会でキャンピングカーサイズの車 19 名乗りをチャーターしてくれて朝 5 時から出発した。そこでカンボグランデの移民の歴史を聞いた。1914 年鉄道が連結したことにより何人かが住み始めた。カンボグランデは最初成功したからどんどん呼んだ、最初の入植した人の中には名護の真喜屋出身が多かったそうだ。だからカンボグランデには名護人が多い。良く名護市長も来るそうだ。横井庄一さんもカンボグランデで牧場を営んでいたそうだ。サンパウロに行く長距離バスの車内でもピシッとしていたそうだ。欧米系の方は 6 ヶ月間で他国の言葉をベラベラと話せるようになるそうだ。日本人が何十年とかけてもできない人が多いのに。逆に日本人がすごいところは信用を得ることだという。そんな話を宮里さんから聞きながら池まで向かった。途中ほとんどニーブイして聞いてなかったけど、まだ外は暗くバレなかった。5 時に出発したから、ついたのは 9 時頃になっていたと思う。休憩の度に出てくる源河さんの手作りマンジョーカや揚げもん、まんじゅうを皆でボリボリしながら向かった。遠足みたいだ。車内は永遠とカラオケで演歌が流れ、誰も歌わないがひたすら流れている。そして沼についた。曲がった腰を伸ばす。ふらつくおばさんもいた。そこにはサバイバルに耐えれそうな、脂肪を蓄えた女カーボーイが立っていた。この施設に入るにはサインと金を置いていきなっと言ってそう。沼を回る船に乗り込みいざ出発。アマゾンをおぼろげ茶色がかかった水に見渡す限りのジャングル。日本にない景色に自然と心が踊った。ゆーっくり進むとチラホラと鳥が飛んでいる。鳥が空を旋回する。空高くいるうちは誰も手出しできない。鳥は空に逃げた。そして空を制した。20 分ぐらい進むと船を止めピラニア釣りをした。餌は肉だ。すぐ食いつくがうまく餌だけ食って行く。慣れているのだろう。ピラニアを何匹か誰かが釣って終わった。崎山年長さんが釣り上げて自慢気に釣りについてしばらく語っていた。巻き込まれてたくないから少し距離を置いたら、宮里さんが餌食になっていた。自慢話のピラニアかのように、聞き手に食いついたら離れない。怖いものだ。ワニが船にスーッと寄ってくる。先程釣られたピラニアを餌に遊ばれているワニ。1 匹啜えて茂みに帰っていった。そのあと鳥にもピラニアをキャッチさせ帰った。ボリビアの前に見たほうが良いなとおもった。陸に着いたらイキヨイ良くゲロ吐いてる韓国人がいた。その量は新たに沼が増える程だった。朝食い過ぎたか。そのゲロの後昼食を食べ、1 時間休憩し、今度は陸上サファリだ。ボリビアで見た景色をひたすら走り、途中歩き、がじゃんを見て帰った。カンボグランデに戻って来たときは日が暮れて演歌のビデオの光が車内を照らした。演歌の悲壮感に霹靂し美空ひばりに心を励まされた。こんなながく一人で運転している兄さんが凄まじい。感謝しかない。カンボグランデに到着したらソバリアキョウダイと言う蕎麦屋さんに行ってステーキとフライドポテトを食べて帰った。日本ではできないチョイスだ。

1 月 25 日(金) 研修 17 日目 カンボグランデ 4 日目

朝起きて天気が良かったのでホームステイ先の家の周りを散歩してみた。一人で歩く町はこの三日間で幾度となく通ったが、一人という不安感から全く違ったものに見えた。すれ違

う人々の息が聞こえるかの様な臨場感。働く人々の心の声、人や道路の臭い。全ての感覚がより近くに感じられた。なれると近すぎて感じなくなりそうな、部外者だけに与えられた感覚を楽しんだ。大きな公園にたどり着くと平日の朝というのに人が大勢いた。ご老人達はいても違和感ないのだが、皆集まれる場所があつていいなと羨ましくなる。沖縄ではあしびな一広場的空間だ。トランプやマージャンみたいなものや、ペットボトルのキャップでチェスをする老人。皆一生懸命だ。賭けもおこなわれているはずだ。公園内の歩道を外れ少し木々が生えてる場所でヒッピーの様な格好をした若者達が楽しそうに立ち話をしている。そのあたりは煙草の臭いが充満していた。公園外の大通りには警察が交通整備をしているのに随分と余裕だ。小さい子が一人近くで走り回っていた。相当なついでる様子で、若者の中の誰かの子だろう。自由奔放に育ちそうだ。そんな日本では非日常風景を見られる楽しみは観光に来た

朝散歩に行って帰ってきて10時半からじっちゃんと飲んでそのままカレー味のポトフを食った。ちょっと休憩して3時位から日本人会館にあるゲートボール場見て一旦帰宅。夕方また一杯やりましょうと、じっちゃんが言う。もういい加減にじっちゃんの話聞くのが苦痛になって来た。普段誰も話を聞いてくれないのだろう。私は聞き役として好きならば一緒に誘ってくる。一杯飲みましょうや。その言葉に適当に返事をして部屋にいと、リビングからプシュッと、缶ビールのノブルを捻る音が静かに響いた。他にやる事が無いじっちゃんはただ私ができるのを座って待っていた。視線の先には窓から入る夕日の木漏れ日が今日の終わりもそろそろと語ってくる。そっと覗いた背中ではボリビアで食べたアルマジロのように丸まっていた。抵抗できずに私も席に着いた。その後じっちゃんの友達自慢やらたまに県人会の悪口やら、だいたい3つの題と、今までの話の組み合わせで2時間弱話す。お世話になってる手前、席を立てずにチラチラ時計を見る。お世話になる事は楽では無いと感じた。自由が無くなる。

鈍い針が20時を刺した時やっとな源河きよみさんの家に行くことができた。集合時間を過ぎて向かうのがカンボグランド流だ。きよみさんのそばは沖縄に帰らなくても良いなと思うほどまかった。豆腐も手作りでふつうに美味かった。ぼろぼろ感は強かったけど美味しかった。うむくじ天ぷらも作っていた。冷たく油ぎってたが出来立ては美味しそうだった。なんでも自分で作ってしまうきみえさんはスーパー-carey womanだ。家の隣の製麺所も、休まず忙しそうだ。

1月26日(土) 研修18日目 カンボグランド5日目

朝ゆっくり起きた。郵便局に行き沖縄宛にハガキを4通出す。10リアル程だった。1か月以上かかるらしい。私の方が早く沖縄に戻るが面白いので出した。移民船も1ヶ月かかったと皆言っていたことを思い出した。夜は県人会館にて三線したりカラオケを歌ったりで盛り上がった。若い世代との交流もあり楽しかった。また沖縄県系ではないが沖縄に興味を持

ってくれている方々とも会えて嬉しかった。毎週末こうやって公民館みたいなところで集まってカラオケなどをやったりダンスをやったりしているコミュニティーがいいなと思った。

1月27日(日) 研修19日目 カンポグランデ6日目 移動 ロンドリーナ初日

カンポグランデの県人会の皆さんに見送られ出発。席はたまたま1番席の窓際。離陸するまでお世話になったカンポグランデの町を見ながらさよならを言おうと思っていたがいつのまにか寝てしまい、起きると空の上だった。サンパウロに近づくと窓から大きなビル乱立するのが見えた。ビルの間には何があるのだろうか。路地裏こそ本当のブラジルが見えるのだろうか。私はまだブラジルの綺麗な所しか見てないな。サンパウロから乗り継ぎでそのままロンドリーナへ。ボーイングゲート待合場でイチャつく機長とCAがいた。仕事前にイチャイチャしやがってとやきもちを焼く。考え事をしながら機内席でうつむいてたら急に前の乗客がリクライニング倒して来て頭打った。意外に何もなくて飛行機は無事ロンドリーナ地におりた。空港には国吉千恵美さんと旦那のチアゴさん、ナカマ夫妻が出迎えに来てくれた。ナカマさんは去年しゅうごさんとあかねさんがお世話になったお宅だ。今年は国吉さん家にお世話になるようだ。国吉さんの家に着いたら地上ロビーの集まり場で県人会が集まり皆んなで歓迎会をしてくれた。若い人も集まってくれて嬉しかった。若者とは中々会えないのが研修の辛いところだ。今日初めてポルトガル語を話したいと思った。中々ブラジルでは日本語を話せる若い人が少ないからだ、若い人たちの交流を進める為にはこちらのポルトガル語を必要とする。そんな努力も必要である。南米の人が沖縄に来た時、われわれは彼らの言語を話すだろうか。否

1月28日(月) 研修20日目 ロンドリーナ2日目

朝ゆっくり起きると父が上裸で座っていた。貫禄が半端無い。朝にはチアゴさんは上司の身内の葬式に行っていなかった。軽くパンとコーヒーハムチーズを食べてお昼ごろ出発。ママの実家に行っておじいちゃんおばあちゃんと一緒に昼ごはんを食べた。おじいちゃんは94歳位で耳が遠くてあんまり歩けなかった。おばあちゃんはもう認知症になっていてご飯を食べるのもままならなかった。二人を介護しながら元気に生活している方がすごいなと思う。その後チアゴさんはまた仕事に行った。その後町の中心に行き県人会館やミルクアボガドジュースのVITAMINAとパステルを食べた。帰る途中に日本県人会の移民100周年記念した公園があったのでそこを見学した。鳥居がたくさん立っていて、変な三角形をモチーフにしたモニュメントがあった。そこは中心街にあつてすごかったが、ホームレスのたまり場となっていた。1時帰宅して一休み。昼間動き回るのは南米では命取りだ。

1月29日(火) 研修21日目 ロンドリーナ3日目

メル、レストランチ、ファゼール、ゴーヤチャンプル。私はレストランでゴーヤチャンプルを作ります。ゴストウーズ、好き、美味しい多少のポルトガル語をロンドリーナ県人会長の城間さんから教わった。少しの自己紹介を覚えるのに1日を費やしてしまった。

1月30日(水) 研修22日目 ロンドリーナ4日目

朝6時半出発でコーヒー園に向かう。農園につくと車内までコーヒーの香りがしてきた。良い匂いだ。こんな香りで目覚める朝はなんて清々しいのだろうか。コーヒー園の運営について学んだ。日系人の移民し初めはコーヒー農園で働くことが多かったそうだ。元々はアメリカから連れてきた奴隷を使って運営していたコーヒー農園だったが奴隷禁止により人が無くなったところに日系人が働いた。手作業の仕事はきつかったらしい。今では収穫も大体機械化が進み生産性も上がっている。町に帰ってきてチアゴさんと泳ぎに行った。流石泳ぎの先生をしているだけあって、ただ戯れて泳ぐだけと思っていたが、メッチャトレーニングさせられた。たるんだ体にいい刺激を頂いた。その後の記憶はあまりない。充実した疲労感が体に残っていた。

1月31日(木) 研修23日目 ロンドリーナ5日目

日本移民会館を見に行ったら。ボリビアと同じく最初はジャングルで開拓するのが相当な苦労があったようだ。その後、恩納村出身の移民一世、荻堂絹さん宅に遊びに行った。豆腐屋を30年続けた商売人で凄い方だった。絹さんは1959年25歳の時にブラジルに移民した。旧姓は名嘉真。恩納や安富祖に知り合いがいらっしゃるそうだ。帰ったら写真を見せてあげたい。津波古まさおさんという恩納で配達屋さんをしていた人の事を7回ほど話していた。オーバーのかめかめ一攻撃が凄まじく、こんないっぱい頂いたらおばーが食べるの無くなるよと言うと、ブラジルは広いから大丈夫、ロンドリーナに食べ物が無くなったらサンパウロから持ってくると言った。スケールがでかすぎて腹に入らなかった。その後も嵐のようなかめかめ一攻撃はやむことは無く、命辛々、荻堂宅を逃げ出した。包装されたお土産まで頂き、中身は何が入ってるか分からないけど箱が上等だから中身も上等よと、気の利いた別れ言葉を投げかけてくれた。ありがとう。その後どこの州にも行けるバスが出るバスターミナルに向かった。そこは円状のドーナツの形になっていて、成る程どこの角度にも行くにも便利なターミナルだった。ぐるっと1周回ってフルーツのジュースが飲めるお店に行った。日系人がやっているという事で頑張っ欲しいと思った。沖縄でやっていたらライバルとして警戒してしまうのに。外に出たら日系人として仲間意識が芽生える。フルーツの匂いが充満して良い香織の店だ。店頭に並んだフルーツは南国をかもし出していた。それらを笑顔の素敵なお姉さんが絞っていた。最後に練乳も勢いよく絞り出す。なんだかすこしセクシーだった。味はフルーツの香りと見た目の色が良かった。練乳も効いていた。私はグアバがメインで複数のフルーツが入ったジュースを飲んだ。美味しかったがまだ荻堂さんのかめか

め攻撃によるダメージが残っており全部飲めずまま家に持ち帰った。夜は父の薫さんとフットサルしに歩いて10分ぐらいのところにあるフットサル室内コートに行った。日系人のおじ様方とプレーしてとても楽しかった。その後反省会で近くのレストランで飲み食いした。こんなおじ様方に私もなりたい。

2月1日(金) 研修24日目 ロンドリーナ6日目

昨日荻堂さんから貰ったゴーヤーを朝仕込む。包丁がきれなくて全部切り終わるまで汗をかいてしまった。その後フェーラ、朝市に向かった。色取り取りの果物、野菜に人々。賑やかだ。パステル食べてお腹いっぱいになった。パステル屋の名前が比嘉侍で笑ってしまった。お昼はおばちゃんの家で食べた。そこでゴーヤーチャンプル作った。肉もなかったけど、どうにかうまくできた。豆腐は荻堂さんの所の豆腐だ。硬くて炒め物には使いやすかった。塩もみしてなるべく苦味を少なくした。ブラジル人は甘いのが好きだし。沖縄のゴーヤーチャンプルは不味いと思われたら大変だから沖縄在住県民を代表した気持ちで作った。みんな美味しいと食べてくれてホッとした。その後じいちゃん、ばあちゃん、お母さんにバイバイして家に帰って休憩。千恵美さんの母は恩納村役場で働く宮平さんと親戚。沖縄に住んでいる千恵美さんの親戚のおばさん(玉寄さん)が今度の恩納村からの南米派遣があれば一緒に連れて行って欲しいといっている。できるといいな。少し休憩が長くなったが夜7時からショッピングモールにてお土産を買った。沢山買いたいけどトランクに入るかが心配だ。そのモールでご飯食べながら若者たちみんな集まってくれて最後のお別れをした。やはり若者と話すのが1番楽しかった。叔母たちもいっぱい可愛がってくれて本当に感謝しているが、若者と喋るのは楽しいしこれからの未来についてもっと語り合うべきだ。次世代につないでいかなければならない。そう強く思う一方で繋がりが薄くなっていくのも致し方ない事なのかもしれないと思っている自分がある。つながりが必要な時は団結しないと生きづらい時。つながりが薄くなっていると言う事は各家族で生きていける環境だからだろう。それはそれで良い事なのかもしれない。周りの環境に合わせて変化できる者だけが生き延びる。それが自然の成り行きというも。でもそれに逆らって繋がりを残していきたい。自然の成り行きに逆らうことは大変だ。

2月2日(土) 研修25日目 ロンドリーナ7日目 サンパウロ移動

ロンドリーナからサンパウロに移動、朝早く千恵美さん、チアゴさんが送ってくれた。薫さんがまた来てねっ、今度はもっとゆっくり滞在したらいいと言ってきて嬉しかった。空港までの道乗り千恵美さんはなぜか不機嫌だった。朝ごはんクロワッサンのサンドイッチとコーヒーを手土産に2人と別れた。腹がでかく、1週間も休みとってくれて付き添いほんとありがとうございます。サンパウロ着いてからは怒涛のスケジュールで、うりずん会の新城

にいにいと、去年恩納村研修来た棚原国広が迎えに来た。

無事合流しサンパウロのリベルダーヂにある県人会館に遊びに行った。そこでは沖縄文化を習う熱心なウチナーンチュの姿があった。三線を習うもの、舞踊を習うもの、空手や琴を習うもの。みんな沖縄文化が好きみたいだ。私は沖縄にいるので練習しようと思えばいくらでもできるのに習ったことが無かった。いつでもどれだけでも習えると思ったら意外とやらないなと思った。海にも沖縄在住の県民はあまり入らないし…。その後みんなでBBQをし交流を楽しんだ。腹の虫が収まると、エイサー練習を見学しに行った。琉球國祭太鼓の練習とエイサー団体レキオスの2団体を見に行った。ブラジルでこんなに一生懸命エイサーを練習している姿に胸を打たれた。団体の皆のバチは確かに私の胸を打っていた。夜はうりずん会の皆でカラオケに行った。皆沖縄の唄を歌ってくれた。皆沖縄が大好きだ。嬉しかった。

2月3日(日) 研修26日目 サンパウロ2日目

棚原さんと歩行者天国に行った。日曜日だから人が沢山いた。改めて多民族国家だと思うほど沢山の人が通りを行き来していた。まさに国際通りだ。そこで大道芸人が人気だった。世界を相手に活躍する大道芸人は凄い。昼ご飯をリベルダーヂの日本人街にある日本料理の食べ放題の所に行った。そこはとても繁盛していた。すぐに入れなかったのも、待合場所がドリンクカウンターを窓越しに見渡せる場所だったので私は職業病と言いますか、レストランの働いている人たちの行動やキッチンの構造、配置、流れを見るのが好きでぼーっと名前が呼ばれるまで眺めてました。すると一人の女性スタッフがブラジル人離れした手際の良さで(ブラジルの人を勝手にのんびり屋と決めつけてすみません)飲み物を作っていた。コップを洗うのも丁寧かつ早い。ここまで素早く丁寧にするスタッフは我空にはいない。その手つきの良さに私は心を奪われてしまいました。それから名前を呼ばれ料理を食べ帰るまで半分以上はそのスタッフを見てしまい気持ち悪いアジア人として思われたと思う。料理は日本だけでなく韓国、中華料理などもちょくちょく入ったバイキングで美味しかったはずだ。キビキビ働くスタッフに夢中であまり覚えていない。夜は棚原一族が一堂に集まり宴会を開いてくれた。元サンパウロ県人会長の真栄城さんの挨拶から始まった。真栄城さん曰くブラジルに移民に来たが今日ではそれが逆になり、日本に出稼ぎに行くという。時代は変わるもんだ。次に棚原くにひろの挨拶だった。ほとんどポルトガル語でなにいつてるか分からなかったけど研修制度は大事だといっていた。棚原えいさくさんの挨拶がその次に続く。えいさくさんは以前、研修で沖縄に行ってウチナーの心を貰った。それが一番の宝物だと語る。三線の花を歌うくにひろさん。とてもうまかった。サンパウロやブラジルの日系主催のカラオケ大会で優勝経験をもつほどの腕前だ。棚原エイジさん(棚原家の長男の息子の次男)にもあった。棚原さんとの話はブラジルの裏の社会を教えてくれた。ここにきてウチナーンチュ系の方々が一緒に付き添って歩いてくれるから問題もなかったが、実際はやは

り恐ろしいそうだ。棚原さんの経営する建材屋も強盗に何度も襲われたことがあり一度は店で銃撃戦になり従業員 1 人と犯人 2 人が死んだそうだ。店を繁盛させたいがあまり目立ってしまうと泥棒（ブラジル県系の人はそう呼ぶ。日本の感覚の泥棒ではなく、人の命まで奪う）に目をつけられてしまい子供を誘拐されるそうだ。日系やアジア系の人々は特に被害にあいやすいそうで、棚原さんの知人も何名も強盗や誘拐にもあっているそうだ。母親が 3 か月子供が誘拐されて、心配で衰弱死してしまったケースもあるといていた。ブラジルの今の一番の問題は治安の悪さである。そう語る棚原さんは今の大統領に変わって治安が良くなると期待している。最近変わった大統領は軍人上がりで、右翼左翼でいったら右翼らしいのだが軍隊が厳しく犯罪を取り締まれば治安も良くなるという。昔は共産国家時代は軍隊が怪しい人、若い人が 3 名で集まったらすぐ検問した。犯罪に対しても厳しく罰していた。浮浪者も軍隊がいつの間にか連れて行くらしい。人体実験で医学もずいぶん発展したそうだ。どの政権も善し悪しあるがブラジルの現在の民意は今から良くなるはずと期待している。日本は平和だからいいなと言っていた。ブラジルから見れば日本で仕事は売れすぎて殺される心配ないから何の心配もなくて良いと。確かに命の危険に比べると大抵の問題は問題では無くなる。しかし日本にいと何でもないはずの問題が命をも奪う問題に発展しかねる。環境が変わると色々と問題も変わるもんだ。しかしブラジルの人々はいたって楽しそうだ。日本で私も楽しく仕事しようと思う今日この頃である。

2月4日(月) 研修27日目 サンパウロ3日目

夜中カミナリの音がすごく目が覚めた。近くで落ちたようだ。9時過ぎに栄作さんが迎えに来て出発。久しぶりに雨が降り一気に肌寒くなったサンパウロ。気温差が激しく、雨期だったことを思い出した。まず車を中心地のデパートに置きブラジル発の電車に乗った。ブラジルの地下鉄、それに乗ると栄作さんから聞かされた時、正直車にしときましようと思っていた。冷たいアルミの車両にスプレーの落書き、そんなイメージだ。予想とは裏腹に綺麗だった電車は快適だった。オリンピックに合わせて改装されたと栄作さんが教えてくれた。ブラジルも意外と安心だと思いきりリラックスして立っていた。次の駅が見えたとき結構なブレーキで慌てて手すりを掴もうと手を伸ばしたが時遅し、体は前に振られ伸ばした手で隣のチリチリの坊主頭にリアットをかましてしまった。電車と共に私の息の根も止まるかと思ったがチリ坊主は笑って許してくれた。そんなこんなことがあったが田舎からサンパウロに出てくる電車の集合駅に着いた。近くの美術館を外から入口と施設内の公園を見てウーバーで市場に移動することになったがウーバーが30分くらい待っても来なかった。結局タクシーで移動。市場を回り見して、ハムが20枚ぐらい挟まれたサンドイッチとパステルとハイネケンビールの重すぎる朝食を食べ、果物売りの押し売りに負け結構な量の果物を買込み、帰るまでずっと持ち歩くという羽目になり「苦だもの」になってしまった。押し売りの味見の量が多く、軽く500円分以上は味見させてくれた。それからイタリアの建造物の屋上からサンパウロを見渡せる所に行ったが3時まで開いておらず、歩き回った。途

中デモ隊に遭遇。教師の給料を上げろというデモだった。公務員も強気だ。教会を回り、キリスト系の象を回った。教会の周りは浮浪者のたまり場だった。観光客に浮浪者、宣教する人、聞く人さまざまな人がいた。またイタリアビルに戻ったのだが相当迷った。そいえば良直が前半で吐きそうになっていた。重すぎる朝食の後、歩き回ったので目が回ったようだ。イタリアビルの屋上にてシャンパンを片手に町を見下ろした。金持ちになった気持ちだったが高い所は風が強かった。人間社会と同じだ。町はビルが乱立していた。美人が記念撮影をされていてパンツがみえそうでそちらの方に注意がいつてしまった。帰りの途中、串焼きを食い、栄作さんの実家に行き、お父さん母に挨拶した。家がでかかった。夜は柔道を見てホテルに帰った。途中また道に迷った。栄作さんは良く道に迷う方だった。人の為に動くことを苦としない凄い方だった。不器用なのがまた栄作さんの純粹さを感じさせる一面だった。明日はいよいよイグアスだ。

2月5日(火) 研修28日目 サンパウロ4日目 イグアス移動日

朝、棚原くにひろと出発！ブラジルはネイチャープログラムは無いけどヒューマンプログラムが多いといった。確かに地震も台風もないが人が建設したダムが崩壊して大きくニュースになっていた。そんな面白い話をしながら空港に向かった。お昼のマックのハンバーガーはブラジルサイズで単品で腹いっぱいになってポテトを残した。もう水が入らないお腹だったがコーヒーとチーズパンみたいなボンという丸いやつをご馳走になった。そして敏夫さんが手ぶらで空港に到着し一緒にイグアス地区に飛んだ。イグアスの空港につくと空港は改装中で色々むき出しだった。レンタカーを借りてホテルに向かう。受付を済ませ貰ったカードキーで1103室を開けたら老夫婦が寝ていた。強烈なドッキリだ。今日チェックアウトの予定だった老夫婦がまだチェックアウトしてなかったのが原因だった。しかし夜7時の事である。凄い延長だ。荷物をホテルに置き、民族ショーをやっているレストランで夕ご飯を食べた。多国籍の上が見られるレストランとしてギネスにも載っているレストランだ。南米各国のダンスを見たがある程度似ていた。隣の少年がブラジルサンバの曲を聞いた瞬間立って踊り始めた。ブラジルの血が騒ぐのか。キレキレの動きだ。ここの子供たちは曲がなったら自然と踊りだしている。そのダンスは誰に見せるものでもなくただ自分が楽しんでいると言う自然な動きだった。私も帰ったら余興をクリエイティブにしようと思う。

2月6日(水) 研修29日目 イグアス2日目

朝朝食を食べホテルを出発しクラスの時に向かった。胡散臭い駐車場係に引っかかり有料の駐車場に車を止めた。無料の駐車場もあるらしい。出発までいろいろと小さな問題があったがツアーバスに乗り込みいざ出発。途中でバスを降りて川から滝を眺めるためボートに乗る。イグアスの滝は遠く離れていても水しぶきでびしょびしょになるほど水しぶきが降

り注ぐ。勢いよく落ちて来る滝の水はゴーゴーと低い音とともにまさに圧巻だった。映画のワンシーンみたいだ。ジュラシックパークに出てきそうな。滝の間に緑が混ざり高いところから段々と流れている。みんな水着を着て濡れてもいい格好して滝壺の目の前まで進んでいる。私たちは濡れたくないボートに乗り込み少し離れてたきをみた。他の人々はみんな滝の近くまで行ってびちょびちょだ。滝勢いで川の流れは激流とかしていた。ボートで結構ぐいぐい進んでいた。その勢いもアトラクション的で楽しかった。ボートから上がり陸上から滝を見に行った。歩いて見に近くまで来るともっと迫力があってもっと水に濡れた。一瞬で大量の水が永遠に落ちてくる様は凄かった。その後飛行機でサンパウロ、サントスに戻った。

2月7日(木) 研修 30 日目

サントスに戻った我々は私の親戚を訪ねることにした。色んな方の協力がついに親戚に会えた。何とか無事に会えてほんとによかった。夜は敏夫さんの家族、兄弟と皆んなで塩辛いピザを囲んだ。敏夫さんの娘さんの婿さんがブラジル人で、ビール乾杯を永遠にしていた。その後の記憶がない。

2月8日(金) 研修 31 日目

敏夫さんの奥様が朝 10 時に迎えに来てくれた。そしてお父さんの家に行った。お父さんはサントスの三線教室の時に最初らへんに会った人だった高層マンションの真ん中あたりに住んでいて 88 歳だったが元気でよく喋る人でした。東村の出身で昔は木をよく切って売っていたと言っていました。県管理の森を隠れて切って売っていた。巻がなくなったのでブラジルに来たと。最初はパステルの商売の手伝いから始めた。のちにそのパステル店を買取、(主がもう難儀とって買い取ったらしい) 2 人の若い従業員を雇って始めた。60 年代の好景気で店も繁盛した。それが 10 年続いた後のスーパーインフレで一気に不景気になったそう。当時のブラジル大統領のインフレ政策が失敗し日系人の多くは日本に出稼ぎに行った。モアイがその時流行ったそう。ここではタノモシというらしい。伊良波朝昭(ちょうしょう)おじさんは言った。生活が貧乏だったら花も綺麗に見えない。おじさんと別れ津嘉山敏夫別邸に戻り荷造りして空港へ向かった。

2月9日(土) 研修 32 日目

飛行機内で日をまたぐ。時間は経つ以上に日付は進んでいく。早送りされた日付の中でじつと座って沖縄を目指した。またいつか南米にこれるだろうか。いや絶対に来ると近い旅と臉をそっと閉じた。研修に行かせていただき誠にありがとうございました。



修了証

恩納村派遣第3号

玉城 悠

平成30年度恩納村青年海外派遣事業に於いて、研修生として研鑽に励み、恩納村出身の海外移住者子弟等との絆を深めるとともに、国際交流に関する知識と経験を身につけられました。

よって研修終了したことをここに証します。

研 修 期 間 : 平成31年1月9日～平成31年2月10日

研 修 先 : ブラジル(サントス・サンパウロ・カンポグランデ・ロンドリーナ)・ボリビア

平成31年2月14日

恩納村長 長浜 善巳



研修報告書等
比屋根 良直

比屋根良直

1月9日（水）沖縄

本日、沖縄を出発し、成田、アトランタを經由して、ブラジルのグァルーリョス空港に向かう。那覇空港には、本事業の昨年度の研修生の長濱茜さん、山城修吾さんや、現在恩納村で研修中の平良カート賢一さん、棚原カレン栄子さん、恩納村役場の當山幹太さん等、皆さんが見送りに見えていた。

これから約1か月にわたる研修日程であるため不安もあったが、見送りに来た皆さんから預かったブラジルへのお土産の数に驚き、これから始まる研修、交流が大変大きなものであることを確信し、期待に胸膨らませ最後まで一生懸命頑張りたいと改めて気合が入った。

移動中、一緒に研修へ行く玉城悠さんと、現地の恩納村人会や県人会との交流の際のプランなどを話し、それらは今日からの研修が充実したものになると予感させるものであった。

1月10日（木） サントス1日目

ブラジルのサンパウロのグァルーリョス空港に到着した。出口を見ると津嘉山敏夫さん、津嘉山則夫さん、棚原国雄さん等が、恩納村旗や「ブラジルへようこそ！BEM VINDS AO BRASIL」と書かれたメッセージを持って出迎えてくれた。

空港で記念撮影をし、その後、皆さんと一緒にサントスへ向かった。空港があるサンパウロからサントスまでは、約2時間の道のりである。車内で最近のブラジルの政治経済、観光、治安、ここに住むうちなーんちゅの生活の話などを聞いた。皆さんの会話はポルトガル語のほかウチナーグチで会話していたので驚いた。

津嘉山さんは不動産の仕事をしており、道中、建築中のアパートや、パーティーに使用できる貸会場などを見学した。長男のトモヒロさんにもお会いし、会社の事務所等を訪問した。

昼食はシュラスコのお店に行った。ブラジルでは、肉を食べない日は無いと言われるほど、牛肉を中心に様々な肉料理、調理方法があるそうで、ここでは串焼きした大きな肉の塊をテーブルで切り分け食べるほか、サラダや豆料理のフェジョアード等の料理を自由に皿に取り食べることができた。

食後、私と玉城さんは、津嘉山さんが持っているアパートへ行き、荷物などを置いて休息した。

サントスというところは、海水浴ができるロングビーチが有名であり、ブラジル内外からたくさんの方が訪れる場所である。ビーチエリアからメインの道路をはさんで、たくさんのおアパートやホテル、ショッピングモールが立ち並び、ビーチは人々が泳ぎや散歩などで自由にアクセスしたり、ビーチサイドのお店へ行けたりと、人が集まりやすいよう計画されているように感じた。昔から貿易港もある地域であるため、人やモノが行き来する場所であり、移民の歴史でも密接に関係している場所であると説明があった。

夜は、ビーチサイドのお店で夕食を食べた。津嘉山さんや、長男のトモヒロさん、津嘉山さんの娘さんの旦那のハミーさん等が集まって、歓迎の夕食会になった。

1月11日（金） サントス2日目

朝食には近くの店で、パンにチーズとハムを挟んだものと、甘めのコーヒーを飲んだ。こちらの朝食と定番ともいえる組み合わせとのことである。

朝食を済ませ、津嘉山さんが管理する建設中のアパートを視察した。地震が無いブラジルでは、アパートの耐震性はそれほど重要視されないと説明があり、さらに下に駐車場を設置して空間を作らなければ建築許可がおりないなど、日本との建築物の基準についてお話があった。また建物の敷地の約2割の面積を植樹や花壇のために使用し、自然等の景観を維持する必要があるとのこと、これらは自然保護の考えに基づいて法律で決められているとのことであった。アパートの建設現場で働いている方々へは、家族の分だけ、米や油、チリ紙などが一式入った袋を持たせているとも話があった。

不動産の会社では、貸工場なども保有しており、まずリサイクル工場を見学した。ここではアルミ缶のリサイクル業者に工場を貸しており、月500トン余り、サントス5地域からアルミ缶を集め、圧縮して、資源として売っているとのことであった。

次の工場へ向かう道中に、赤瓦の家々が並ぶ地域を通ったが、ここは、国や管理されていない土地などに、不法侵入した人たちが作るファエラという街であると話があった。麻薬製造や、強盗事件などがあり、格差社会のブラジルではこういったスラム街がいくつもあるとのことであった。

次に、建材のサッシ関係を作る工場を見学し、続いて、日本でもカフェ等で見かけるアサイーの加工工場を見学した。津嘉山さんの仕事では加工業者に工場を貸したり、建て売りなどを行っているとのことであった。そのほかには、スーパーマーケットや教会に貸していた。

昼食は、長男のトモヒロさんが運営する貸会場へ行き、お弁当を食べた。その後貸会場について見学した。ブラジルの文化背景として結婚式や女性の15歳の誕生日を大きく祝う風習があるので貸会場の需要があるとのことだった。

その後、ゴルフ場をお持ちとのことで、施設を見学した。

津嘉山さんはこれまで大変な苦勞と会社を大きくするために一生懸命に仕事をされて、一時には何百名もの部下を抱えるほどの成長をした。失敗もすることがあったが、それでも続けてきてよかったとお話を伺うことができた。

夕方、ショッピングモールを見学し、こちらのファストフードのハンバーガーを買って帰った。日本と味を比べると大きく、中身も肉の感じが強くて香辛料やソースが強い印象があった。とてもおいしかった。

夜は、玉城さんはサントス沖縄県人会のフットサルチームと一緒に試合に参加された。私は写真撮影や資料室を見たり、途中で買い物などをして過ごした。

1月12日（土） サントス3日目

朝、フェーラという移動市場を見学しながら、日系の人が開いているパステルのお店に食べにいった。パステルはパイ生地のようなものでひき肉やチーズを包み、油で揚げたものである。

移動市場を見学後、パステルを作る工場へ行き見学した。パステル工場は、以前は津嘉山敏夫さんが運営し作っていたそうだが、現在は、弟の操さんが経営されているとのことだった。3名ほどの従業員が機械の前でパステルの生地作りや具を詰める作業に当たっており、この工場は1日2000個のパステルを作っている。一つは5リアル程であり、サントス内外に5か所の店に卸しているとのことであった。

サントス沖縄県人会館へ移動し、三線の稽古が行われているので参加した。主宰は、伊波せいちゆうさんで、たくさんの方が三線の勉強で参加されていた。三線の稽古は比較的高齢な方が多く、皆さん歌に三線に熱心に取り組んでおり、年に数回は発表会で披露するほどであるとのことであった。

琉球芸能は三線や琉球舞踊、エイサーなどが盛んに行われており、沖縄とも交流を行っているという。ただ近年は、沖縄文化が急速に失われていると感じているようで、琉球芸能、文化関係者のブラジルと沖縄の交換留学等を要望として挙げていた。

1月13日（日） ボリビア1日目

朝6時にアパートに津嘉山さんが迎えにきた。サントスからサンパウロのグアルーリョス空港へ向かった。今日からボリビアで研修となる。

ボリビアについたら、津嘉山修さん、佐渡山安男さん、真栄城やよいさん等が出迎えてくれた。その後みんなでボリビア料理レストランへ行った。

焼肉は小さめの鉄板に様々な肉が焼いて盛られており、とりわけながら食事した。チッチャというトウモロコシを発酵させた甘いお茶や、ワニのセビーチという和え物を食べた。どれもおいしく良かった。

真栄城やよいさん、あかねさん、かいとさんご兄弟は、沖縄県留学研修生やジュニアスタディーのメンバーとして沖縄に勉強しにきたことがあるようで、話が盛り上がった。店でボリビアの民族衣装をまとして皆で記念撮影した。

その後、サンタクルスからコロニアのOKINAWA 移住地へ向かった。牧場や広大な畑を一直線に伸びる道に感動した。しかしアスファルトで整備された道はメインの道路のみで、コロニアの畑の道は未舗装であり、悪路であると聞かされた。先日の雨の影響で道に水たまりができ、ぬかるんでさらにデコボコしているとのことである。

コロニアに到着し、HOSTAL Pascana という宿が私たちの宿泊先であった。

コロニアの雰囲気は商店や食堂に沖縄の名前や日本語がちらほら見られたり、スペイン語も日本語も通じるお店があるなど不思議な感じがした。

夜は宿近くのお店で、ポーヨ（鳥とごはん）を食べた。玉城さんの友人である安里夫妻が来てくれた。お店では先に食事されていた城間つとむさん、真栄城おさむさん、佐渡山安春と交流し食事をした。

1月14日（月） ボリビア2日目

佐渡山さんと一緒に畑と牧場を見に行った。当時の開拓のお話を聞くと、開拓時は1km500mの土地をもらって畑を始めたそうである。作物を育て、さらに畑を買って大きくし、現在は、大豆、米、小麦、トウモロコシ、ソルホなどを、機械を入れて作業している。

道中、アスファルトのない道は車が横に大きく揺れ、現地の人も車を何度も悪路で立ち往生したことがあるようで、まるでアトラクションのような動きに大変驚いた。

牧場では、牛を3年かけて700kg程に育て、72000～75000円代で取引する。痩せた牛をよそから買って売る場合もあれば、大きく牧場を持つものは雌牛を育て高く売ることもある。牧場が小さい場合は、牛の食べる少ない雄牛をかい年に3回ほど出荷するのが定番であるとのこと。

佐渡山さんは、80ヘクタールの畑や、100ヘクタールの畑を複数所有し、連作障害をやらないために、冬は小麦、トウモロコシなど、夏はきびや大豆を育てていた。

ボリビアの土地には畑のほか、隣国からの侵入者が勝手畑をつくったり、山奥に主が使っていない土地があると侵入して勝手に家や畑をして、取り返せない状態になることが度々あり、畑仕事以外にも気を配る必要があると話していた。

収穫はコンバインで行い、小麦70ヘクタールを1日で、大豆は50ヘクタールを1日で収穫する。組合を作っており組合員で合わせて大口契約で買い取ってもらうことで、大秋値段で売ることができるとのことであった。

夜は比嘉食堂で食事をした。パスタの麺が入ったスープのようなものや、牛肉ステーキ、サラダ、飲み物にチッチャを御馳走になった。

1月15日（火） ボリビア3日目

朝、津嘉山しんごさんが迎えに来てくれた。コロニアを出る前に道のそばで屋台を構える天ぷら屋へ行った。串にささった牛肉に衣をつけて揚げたもので、アンティークーチョと呼ばれている。コロニアではソウルフードとのこと、街ではほとんど見かけることができないそうである。店の前にはたくさんの人が並んでおり、人気であった。

農業試験場を見学し、新しい農法や品種などを植えて実験中とのことであった。そこで話を聞くと、虫や病気に強い品種を育て生産性あげるために様々な品種と掛け合わせているとのこと、日本や沖縄からも研究者が来たりするとのことだった。ただ、品種に質は様々であり、また国境付近では隣国から隠れて色んなものが入ってくることもあるそうで、品質を保つ作業も大変であると話があった。

農地に到着して大豆畑を見た。今季は雨期であるはずが、長らく雨が降らず大豆が乾燥にやられているところがあった。実は小さめではあったが、収穫時期が後ろにズレ込みそうであると言っていた。

畑と畑の移動中は、道を牛が防いだりして追い越すのに大変だった。畑を持たない人たちが家畜を放し飼いにしているため、こういうことが起きている。

昼食は、ボリビアの川魚のグリルを食べた。炭火で焼いた魚はとてもおいしく、ライムレモンをかけて食べた。

第1、第2、第3コロニアを通る道を3時間ほどかけてドライブして宿に戻った。最近では海外の開発投資が積極的にインフラ整備をしており、特に中国からのインフラ整備事業が多くなっていることをあげていた。日本によるインフラ整備の計画についてもコロニアで積極的に働きかけているが、調整がうまくいっていないという面もあると話していた。

1月16日（水） ボリビア4日目

朝、沖縄移住地日ボ協会のデイサービスへ見学に行った。今日は、デイのメニューとあわせて、ニセタツアーの交流があった。ニセタツアーとは、移住地4か国の沖縄の青年たちが交流するプログラムである。デイサービスではコロニアの年配の方々が体操やゆんたく、ゲームや三線演奏披露などをして楽しんでいた。ニセタツアーの青年たちも途中から参加し、三線や歌を披露して、コロニアの皆さんと交流を深めていた。食には、おにぎりや三枚肉煮つけ、みそ汁などを食べた。昼食後、午後のプログラムが始まる前に私たちは別の研修へ向かうため、お別れの挨拶をした。三線を持ってきたので、谷茶前やカチャーシーの曲など披露した。カチャーシーではおばあさんたちが前に出て舞を披露し、それに合わせてニセタツアーの青年たちもカチャーシーに参加、大きな盛り上がりを見せた。大変楽しい時間であった。

午後は、真栄城さんと一緒に畑を見学した。途中で安里さんの家へ向かい養豚場を見学した。田んぼを見に行くと、地下水の掘削をしており、聞くと雨が降らないこともあるため、地下水を田んぼに入れているとのことであった。最近では地下水を掘り、乾燥に備えるようになったとのことである。

夜は真栄城さんのお宅で焼肉を囲んで夕食会を開いた。アルマジロや、鹿肉も食べた。アルマジロの姿焼きは、柔らか鶏肉とマグロのかま焼のほほ肉赤肉に焼いたベーコンのような香りが合わさった感じであった。とてもおいしかった。鹿肉の刺身は酢で食べた後、刻み玉ねぎやトマトと和えたものであり、臭みもなくおいしかった。夕食会では、昼間のデイサービスでお会いした真栄城栄子さんも参加しており、当時の恩納村からの移民のお話を聞くことができた。現在のボリビアの生活では、沖縄から位牌もって、仏壇やチャーギなどを備える風習が残っていることや、沖縄からブラジルに移住したユタが祭事の活動をしていた話や、時代とともにカトリックが主流になり、90歳くらいがいる家庭は、冠婚葬

祭で、やり方が合っているとか、違っているとかで、話をするそうだ。キリスト教も合わさって、沖縄のやり方で取り仕切るとややこしくなっているという話を聞いた。

当時、南恩納から移民したが、ここは首里と農民と漁民の村なので、言葉づかいに嫌な思いした。丁寧なウチナーグチ、敬語がつかえない世代には、方言を教えたくないと思気持ちがあると話していた。しかし、このような感じになっていった時代の政策に心を痛めているとも話していた。恩納村の友達に会いたいと話していた。体が動かないので会えない。親戚たちに会いたいとのこと、必ず生きているうちに会いに来よう、連絡してほしいと伝言を預かった。コロニアの高齢者の方の思いというのを感じた。

恩納村出身者が多く集まった夕食会ではカラオケ大会も行われ、スマートフォンとマイクをスピーカーにつなげ、カラオケ音源を流し、歌う即席のカラオケ大会に大変な盛り上がりを見せた。

帰りは第1コロニアまで30分ほどかけて送ってもらい、宿に戻った。

1月17日（木） ボリビア5日目

朝、熱田（山城）まきさんのお宅へ行き、飼育しているワニを見た。その後、安里さん、安里（玉元）みなみさん宅へ行った。現在琉球新報のボリビア特派員でもあるみなみさんから、ボリビア研修について取材をうけた。昼食も御馳走になった。

午後は、オキナワボリビア歴史資料館を見学した。移民の歴史、開拓の努力など大変資料が充実しており勉強になった。資料の中に琉球政府復帰準備室長で交渉人として活躍されていた沖縄銀行代表取締役など歴任した瀬長浩さんのボリビアコロニアでの活動と交渉の記録が残っていたのは大変驚いた。

小学校などを見学し、その後夜は夕食会に参加した。

1月18日（金） ボリビア5日目

渡久地政得さん宅へ行った。釣り堀で魚釣りを体験した。タクーという魚で、白身淡泊な魚である。刺身でもおいしかった。

夜は、比嘉敬光さん主宰の三線稽古に参加した。イベントなどで演奏会を披露し、大変活発に活動されている様子があった。沖縄から22本の三線贈呈もあったとのこと、小学生に三線の指導も当たっている。コロニアで作曲された「村の心」という曲を演奏してもらった。開拓の精神を表す素晴らしい歌だと思った。

1月19日（土） ボリビア6日目

津嘉山昭さんが迎えに来ており、一緒に朝食を食べた。その後、畑と魚のタクー養殖場を見学することになった。タクーという魚の餌には、トウモロコシを茹でたものと、果物をまぜた固形飼料を与えており、これにより魚の肉質が格段に向上するとのことであっ

た。刺身としてとてもおいしい状態で出荷することができるそうで、地下水をくみあげて年中稼働し、2.5 から 3kg で出荷しているとのこと。

また養殖場の近くでキャンプ場も運営されており、月夜には、川や水辺、泥質の土が青白く反射し、静寂に包まれた空間は、別の星にいるかのような錯覚さえ起こすほど、幻想的な雰囲気を持っていると話していた。

夕方、サンタクルスに移動し、街にもある畑を見学した。畑の管理は使用人を雇っており、彼らのために家や十分な給料を渡しているとのことであった。ボリビアの政治的に従業員や、低所得な労働者階級の待遇を手厚くする法律が多いと話していた。経営者としては苦勞する部分でもあると話していた。その後、HOTEL TERRANOVA にチェックインし、買い物をして、津嘉山さんのお宅で夕食を取り、ホテルへ戻った。

1月20日（日） ボリビア7日目

朝、津嘉山昭さんが迎えに来てくれた。サンタクルスの街を見学した。市場や教会、広場の移動市場などを見学した。お昼は津嘉山さんが経営している食堂で、ステーキやピーナッツのスープなど食べた。奥さんと共に経営するお店は、ボリビアに住んでいるドイツ人向けのお店とのことで、市場の近くに出店していることから、賑わっていた。

昼は津嘉山さんのアパートで休息した。ボリビアではお昼時間は基本的に休むことが多い。気温が暑くて広大な土地の地域であるため、移動や仕事のために体力の回復が必須である。

夕方はスーパーへ行ってこちらの特産品やお菓子、ご当地味のインスタントラーメンなどを購入した。ポーヨ味やピカンテ（とうがらし）味、レモンとトマト味など、日本のものとは違うものが並んでおり、面白かった。

夜は、NiSETA TOUR BOLiViA 2019 の閉会式に参加した。ブラジル ボリビア アルゼンチン ペルーの沖縄人が参加するこのツアーは 14 歳から 23 歳の南米の青年たちが交流を通じ次世代の仲間とともに、勉強や、協力や、仲間、体験を共有することを目的に行われている。今回は 70 名程が参加しているそうだ。5 年くらい前には、特別枠で沖縄から参加者が来たこともあるとのことであった。

比嘉透さんから、「これからの沖縄人は、いちやりばちよーでーから、いちやいるめーからちよーでへ、出会いは別れの始めであり、別れは再会の始まり、という気持ちでまたボリビアに来てください」と、私たちに激励の言葉をかけてくださった。

1月21日（月） サントス1日目（乗り継ぎのための1泊）

佐渡山安男さん、津嘉山昭さんが見送りに来てくれた。空港まで送迎いただいた。空港について、飛行機のチェックインが混雑しており、なかなか進まないのが焦ったが、無事搭乗することができた。

ボリビアからサンパウロへ向かい、空港には津嘉山敏夫さんが迎えにきてくださった。空港からそのままサントスへ向かった。

夜は、サントスのビーチが一望できる高台のレストランで食事をした。海が近いだけあって海産物が充実していた。食事後はドライブをして、アパートへ戻り、翌日から始まるカンポグランデのために荷造りをした。

1月22日（火） カンポグランデ1日目

朝、津嘉山さんがサンパウロのコンゴニャス空港へ送迎してくれた。カンポグランデに到着すると名護市郷友会会長崎浜秀彦さん、源河君枝さん、恩納村生まれの山内ひとみさんたちが空港で出迎えてくれた。

その後昼食へ向かい、日本食も食べられるレストランへ行った。寿司や刺身、ステーキ、チキンのグリル等様々な料理があった。食事を終え、生鮮品を買うためスーパーへ買い物に行った。特大のスイカやマンゴー、パッションフルーツ、じゃがいもやトマトなど新鮮な野菜等が並んでおり、ゴーヤーやナーベラーも販売されていた。お店自体がうちなんちゅの人が経営する店であった。

その後、恩納村人の関係者のところへ行くため、車で1時間程移動し、仲松さんのお宅へ向かった。仲松さんは、畑をされていて、父親が移民されたとのことであった。いろいろお話を聞くことができた。

夜、私は源河君枝さん宅へ宿泊、玉城さんは山内ひとみさん宅へそれぞれ宿泊することになっていたの、それぞれのお宅へ向かった。

源河さんのお宅にクリスチャンプロエンサさん等が訪問しに来た。三線の演奏交流がしたいとのことで、話を聞きつけてやってきたとのことであった。私と同じ野村流音楽協会であり、一緒に演奏ができて楽しかった。その後夕食を食べに行き、焼肉などが食べられるお店へ行った。

1月23日（水） カンポグランデ2日目

朝、源河さんが経営する沖縄そば工場を見学した。一日150キロほどつくっているそうで、400人前になるとのこと。正月は500キロ作り、1500人前になると言っていた。街のそば屋さんや食堂、スーパー、市場にそれぞれ卸しているそうで、カンポグランデの沖縄そば文化を支える大切なお店となっている。

午後、大城政忠さんが来た。大城さんは、野村流音楽協会の教師であり、3年程前から私と手紙で交流が続いている方であった。今回初めて顔合わせであった。大城さんとカンポグランデの三線の練習や琉球芸能の話をした。復帰のとき沖縄からブラジルへ移民し、その際に、音源や本など資料をたくさん持ってきたそうである。本や、備品などどのように手に入れることができるか、今後の琉球芸能など文化を継承する上での課題を話した。カンポグランデは3人の先生いたが、みんな演奏が難しくなっており、ネットによる稽古

風景公開制度や、録画配信などの必要性を聞くことができた。また沖縄から先生の派遣の検討をお願いされた。

昼頃、山内さん、玉城さん等と合流した。スーパーに買いものに行き、昼食はファストフードを食べた。カンポグランデよりさらにゴイヤスというところに恩納村人が多いという話を聞いた。姓は、桑江、當山、佐久川、津波古等とのことであった。安富祖集落に係っているとの話であった。

夕方には、カンポグランデの沖縄文化を継承してきた三線演奏家の島田さん宅にお邪魔し、演奏交流を行った。弟子に大城さんやクリスチャンさん等がおり、最近演奏はしなくなってきたが指導は続けているとのことであった。

夜は、ソバリアキョウダイというお店で、カンポグランデのうちなーんちゅの皆様と食事したり、カラオケをして楽しみ、交流を行った。

沖縄そばも食べることができ嬉しかった。沖縄よりストレート麺で、出しが牛と鳥のようなだしであった。錦糸卵がのっており、おいしかった。

1月24日（木） カンポグランデ3日目

朝4時に起きて、パンタナール自然保護区へ向かった。車借りて運転してくださった。移動は5時間程かかる。パンタナールについて、船で観光し、ピラニアやワニがおり、釣りや野鳥観察などを行った。湿地をトラックで移動し、見たことのないような鳥や生き物を見ることができて大変感動した。ガイドの方がいろいろ案内してくれるので、とてもわかりやすかった。また観察ばかりでなく、コーヒーを飲んだりしてゆっくりと時間を過ごすようにスケジュールが組まれており、研修が疲れがないように整備されていると感じた。ちょうど、私は別の仕事でエコツーリズムに関する論文を執筆中であったため、世界自然遺産級の場所のエコツアーガイドの仕組み等、沖縄に持ち帰って比較、検討できるものがたくさんあり勉強になった。その後、17時頃にパンタナールを出発し、夜10時ころに家に到着した。

1月25日（金） カンポグランデ4日目

今日は作業はほとんどなかった。朝、源河さんの作る豆腐作りを見学し、手伝った。豆腐は大豆から豆乳を作り、大鍋で煮込んで、沖縄のシママースを溶かした塩水を少量ずつ入れながら、豆腐の固まり具合を見て、作った。ゆし豆腐のほか、木枠に入れ押し固めて島豆腐を作り、午後の昼食で食卓に並んだ。

午後3時頃迎えがあり、車でカンポグランデの日本会館へ向かった。施設を見学して家に戻った。大きな体育館やゲートボール場、野球場などが設置され、皇族関係者も泊まる施設があるようであった。話によると、沖縄県人会は自分たちで施設を持っているため、日本会館の施設はあまり使用しないようなことを話していた。

街の見学を終え、夕方に、源河さんのお宅で夕食会を開いた。山内さんや玉城さんも参加し、皆で源河さんが作った沖縄そばを囲み食事した。沖縄そばをはじめ沖縄料理やブラジルの料理が並んでおりどれもとてもおいしかった。

1月26日（土） カンポグランデ5日目

朝、山内さんが迎えに来てくださり、街へ買い物に行った。お土産等買うためにスーパー等を寄った。その後、民族博物館へ行った。カンポグランデの歴史や民族資料を展示する博物館で先住民の道具や野生動物の剥製なども合わせてみる事ができた。博物館を見学した後は、カンポグランデ沖縄県人会館で三線の稽古があり、その後カラオケ大会があった。沖縄県人会では、毎週カラオケや三線の練習で皆さんが集まっており、とても活発に活動されていた。日本の歌、とくに演歌は20代にも人気があり、皆さんとても上手だった。そして、皆さんとお別れの挨拶をして、家に戻った。

家に戻ってから、源河さんからお土産のテーブルマット等をいただいた。そこにはパンタナールで見た野鳥の手描きで描かれており、素晴らしいお土産をいただいた。とてもうれしかった。

1月27日（日） ロンドリーナ1日目

朝、空港に到着し、崎浜さん、源河さん、山内さん等皆さんに見送られ、お別れをした。記念撮影をし、それぞれ皆さん今度沖縄に来る予定があるとのことで、沖縄での再会を誓い出発した。今回は、グアルーリョス経由で、ロンドリーナである。飛行機から見たロンドリーナの町は大きな都市に思えた。空港に到着すると、恩納村に以前研修できたことがあるという国吉プリシーラ千恵美さん、旦那さんのチャーゴさん、娘さん、名嘉真ロベルトさん夫妻が出迎えてくださった。

プリシーラさんのアパートへ向かい、夜はアパートのエントランスの広場で沖縄県人会の人たちが集まり歓迎会を開催してくれた。若い人も多く参加しておりとても賑やかな会であった。

1月28日（月） ロンドリーナ2日目

朝は特に用事はないので、ゆっくり起きて朝食をとり、午後に備えて準備をした。午後は、プリシーラさんの親の家へ向かった。おじいさんとおばあさんも一緒に暮らしており、皆で揃って昼食を食べた。

恩納村で研修した時の話や、沖縄旅行の話などいろいろ聞く事ができた。沖縄の研修はとても楽しかったとのことで、落ち着いたらまた遊びに来たいと話していた。

その後、移民100周年を記念して作られた日本移民公園へ行った。公園は町の中心地にあり、鳥居がいくつもあなど、特徴的であった。

近くのシャングリラ市場にも寄り、ロンドリーナの食文化や生活道具などを見学した。途中、市場の通りのフレッシュドリンクの販売店で、ビタミンスムージーシェイクを御馳走になった。ドリンクの中身は、アボカドと牛乳、バナナ等を混ぜたもので、大変人気なドリンクということであった。飲み終わったころに2杯目のお替りをして、とてもおいしかった。

夜は、バーのような店に入り、プリシーラさん家族やロンドリーナ大学医学部在籍の佐久真ヒカルドさんと一緒に夕食を囲んだ。佐久真さんは形成外科医を目指しているようで、ブラジルの美容事情等たくさん話を聞くことができ面白かった。

1月29日(火) ロンドリーナ3日目

朝はゆっくりであった。フランスパンとハムとチーズとコーヒーを朝食で食べて、午後の準備をした。午後は、与那嶺正徳マルコスさんのお宅へ行き、昼食会に参加した。昼食には祖母が作ってくれた沖縄料理やブラジルの家庭料理が並び、とても楽しい食事会であった。沖縄料理をナイフとフォークで切り分けながら食べるのが不思議な感じがして新鮮だった。

与那嶺さんは三線の民謡の教師免許を取得されており、ロンドリーナから代表として沖縄のテレビの民謡番組にも出演する程の演奏家である。お宅で三線の練習やロンドリーナの琉球芸能の展開についていろいろお話を聞くことができた。与那嶺さんからは二見情話や、ナークニー、ひやみかち節などを習った。私からはあっちゃめー小などを教えて、皆で演奏交流をした。

沖縄には何度か来ており、また遊びに来たいと話をしていた。もしかすると恩納村子弟等留学研修生として来沖するかもしれない。またこちらでも交流できればと思った。

1月30日(水) ロンドリーナ4日目

ロンドリーナはコーヒー農園が有名という。話を聞いていたので、今日は、朝からコーヒー農園に向けて出発することとなった。道のりは3時間程かかる。途中、コーヒー農園がある地域に入ると、道路側にはいくつものコーヒーの焙煎工場があった。工場を横切るときには走っている車内まで香ばしいコーヒーの香りがしていた。

プリシーラさんから、コーヒーの生産は移民の歴史や奴隷の歴史の関わりが深いとのこと、日系移民の苦労話があったなど話を聞くことができた。

農場について、最初に朝食をとった。農園の方が準備してくれたパンやジャム、はちみつ、ヨーグルト、そして入れたてのコーヒーが数種類、とてもおいしかった。農園や山々を見ながら朝食をとることができるとは思っていなかったのでうれしかった。

コーヒーの収穫について説明があり、市販のコーヒー豆と農園のコーヒー豆の挽いたものを比較した。コーヒーは収穫時に実の甘い香りを残る木で熟した実を収穫するのがベストという。しかし、実が落ちるとえぐみに変わってしまう。木で熟した実を収穫するのは

大変手間がかかるため、スーパーのやすいコーヒーは、落ちた豆など混ぜて、強く焙煎しエグミを消していると説明があった。コーヒー園のコーヒーは木に実がついている時点で収穫し焙煎するので香りや味が違うとのこと。

農園でいくつかの種類のコffee豆を見比べ、植え方等を学んだ。そのほか、昔植えられていたコーヒー豆の大木を見たり、樹齢数百年の木などを見たりした。農園でコーヒーのお土産を購入し、街に向かって出発した。

夜はロンドリーナで有名なホットドック屋へいくことになった。プリシーラさんや佐久間さん、沖縄で留学研修生だった方々が集まって夕食会になった。このホットドック屋は日系の人が経営しており、当時は屋台を引くところから始まり、現在では30年近く経営するロンドリーナで一番有名なお店となった。お客さんで大変込み合っていた。

1月31日（木） ロンドリーナ5日目

朝、パラナ州日本移民史料館へ行き、日系の移民について学んだ。大木を倒すために使った道具や、街づくりの計画書、日本文化の継承など資料を見ることができた。ロンドリーナ自体は歴史が80年程とのことで、ロンドンのような街づくりを行ったことから小さなロンドンという意味でロンドリーナという名前になったとのこと。パラナ州の日系人の移民の歴史は、森を開拓する歴史であったということが展示からよくわかった。ただ、沖縄の関連資料があまりなかったので少し物足りなかった。

午後、荻堂絹（安富祖生まれ 旧姓名嘉真絹）さんのお宅に行き、恩納村からの移民の話などを伺うことができた。コーヒー、紅茶、巻きずし、まんじゅう、カステラ、チョコレート、ゴーヤー、さらには冷凍した鶏肉までかめーかめーとたくさんもてなしを受けた。恩納村からの1世で、当時の写真などたくさん見せてくれた。恩納村から送られてくる村の広報誌など丁寧に保管しており毎回楽しみにしているとのことであった。

夕方はお土産を買いにバスターミナルへ行き、グッズをいくつか購入した。またここで有名なフレッシュフルーツドリンクを飲んだ。パッションフルーツのフレッシュドリンクを飲んだ。とてもおいしかった。

2月1日（金） ロンドリーナ6日目

朝、フェーラへ行き、市場を見学した。曜日ごとに開催される場所が変わるそうで、野菜や果物、中には日本の米などが販売されていた。この日はアパートから歩いて5分くらいのところで開催されていた。市場には、パステルの販売店があり、比嘉侍という名前で、沖縄の人が経営されているとのことだった。

昼はプリシーラさんの母親の家で食事をする事になった。玉城さんもゴーヤーチャンプルーを作ってくれた。途中、台湾レストランで購入した豚肉や牛肉の中華炒め物なども並べ、ブラジルの豆のサラダなども合わせて、皆で食事をした。おじいさんから日本酒泡

盛というお酒を御馳走になった。アルコール 14 度程の泡盛の香りがする日本酒で、泡盛の水割りくらいの感じであった。ブラジルで販売されているとのこと。

昼食を終えて、夜はショッピングモールに行き、みんなで買い物をした。ロンドリーナのコーヒーやお菓子、化粧品等を購入した。特に化粧品は、ブラジル産のものは日本でも有名なもので、お土産に多めに買っていった。

ショッピングモールのミュージックバーに入り、皆で夕食会をした。明日はサンパウロに向けて出発するので最後の食事会である。みんなで記念撮影をして、再会を誓った。

2月2日（土） サンパウロ 1 日目

朝は早起きして空港に向かった。空港でお別れの挨拶をして、再会を誓った。ゲートに入る前に、サンドイッチとエスプレッソの差し入れを頂いた。最後の最後までお世話になりっぱなしで大変感謝した。

ロンドリーナからサンパウロに向けて出発し、サンパウロに到着すると、うりずん会会長の新城さんと恩納村元研修生の棚原国広さんが迎えにきてくださった。空港からそのままブラジル沖縄県人会本部へ移動した。ブラジル沖縄県人会本部で挨拶をして、野村流音楽協会の皆さんと三線の演奏交流会が予定されていたので参加した。

県人会本部の各施設見学し、吉村尊雄三線胡弓研究所お稽古を見学した。日本語があまりできない方も参加しており、三線練習と合わせて言葉の練習をしていた。沖縄県人会本部ともあって、施設には沖縄関係の資料館があり、それらを見学したり、各種講座などを見て回った。私が 2018 年 3 月にサンパウロに来た時には、県人会会長や皆さんとお会いしたが、今回はアポイントのタイミングが合わず会えなかった。

その後、車でビラカロンへ移動するために準備していたら、偶然本部の前を通りかかったのが野村流音楽協会ブラジル支部長知念直義さんで、アポイントがとれていなかったためお会いできないかとも思っていたところに突然現れたのでお互い大変驚いた。少しの時間であったが、情報交換ができたのでよかった。

お昼はうりずん会のメンバーと交流し昼食会となった。串肉のバーベキューやおにぎり、サラダなどを囲み、皆で楽しく交流した。今回の研修でなかなか同世代の人だけで交流する機会がなかったため大変よかった。

夕方、ブラジル沖縄県人会ビラカロン支部の施設見学及びエイサーの稽古の見学(琉球國祭太、レキオス同好会)を見学することができた。若い人たちとは、通訳を挟んでようやく会話できたが、英語以外にもポルトガル語等を勉強しないといけないと痛感した。エイサーの練習中、メンバーに対して恩納村出身者の子弟はいないか質問した。すると、レキオス同好会のメンバーで 14 歳になる當眞さんという方が、おじいさんがもしかすると恩納村の人かもしれないと話をしていた。もし恩納村であれば、ぜひ沖縄へ留学に来てくださいと声をかけた（後日、アテンドしてくれた方から連絡があり、おじいさんの戸籍を調べたところ恩納村からの移民であることが判明した）。

夜はうりずん会メンバーを中心にカラオケ及び交流会があり、恩納村元研修も参加してくださり、当時の研修の時の話などを聞くことができた。皆さんカラオケが上手で大変盛り上がった。

2月3日（日） サンパウロ 2日目

朝、棚原国雄さんが迎えにきてくださり、サンパウロにある国王の家や施設を見学した。サンパウロの中心地での歩行者天国を見学し、リベルダーヂを散策した。サッカーが盛んなブラジルだけあって、いたるところで、ボールで遊んでいたり、グラウンドでサッカーを楽しんでいる人たちを見かけた。車窓から見えるサンパウロの街は、大きな商業ビルとその間に住宅、なかにはスラムがあるなど、数十メートル間隔で景色が変わる。壁にはアートなのか様々な壁絵を見ることができ面白かった。リベルダーヂでは、お土産屋が多く並んでいた。そこの日本料理を主に扱うレストランで昼食を食べた。寿司、刺身、蕎麦、天ぷら、焼き鳥などから中華料理、韓国料理までたくさんの品がバイキング形式で食べることができた。とてもおいしかった。刺身はサーモンとマグロが人気とのことで、一人で30切れ程をお皿に入れるひともいて、日本の刺身よりも豪快に食べているなどと思った。夜は、恩納村人会を中心に交流会が開催された。上は97歳、下は生まれたばかりの赤ちゃんまでみんなで40名あまりの参加で、大変盛り上がった。ブラジルの地で恩納村の村の旗の前に立っている自分が不思議な感じがして、このように研修でつながることができたことに大変感謝の気持ちでいっぱいになった。レストランの食事とてもおいしく、カラオケ大会が盛んに開かれるだけあって店内には立派なカラオケセットがあり、みんなで歌い食事して大変感激した。

2月4日（月） サンパウロ 3日目

朝、棚原栄作さんがホテル迎えに来てくださる。今日は電車を利用して街を歩いて散策を行うことになった。電車でルース駅へいき、そこからタクシーなどを利用して移動した。普段は車から街を見ているが、歩いてみると緊張感があって新鮮であった。

駅近くのメルカードムニシパウという市営市場を見学した。とにかく広く、新鮮な野菜、果物、卵、肉、魚、酒、オリーブオイル、花、菓子、中には宝石類まで専門店が並んでいた。また、2階にあるレストランでは食事をとることができ活気づいていた。お客の取り合いで店員同士が喧嘩しているのが可笑しかった。市場を散策したあとに、ここの名物のハムがたくさん入ったサンドイッチを食べた。とてもおいしかった。

街の散策では、劇場や作曲家アントニオ カルロス ゴメスのモニュメント、議会堂や、大聖堂を見学した。その後、この近辺で一番高いビルの TERRACO ITALIA という店まであがり、サンパウロ市の街並みを上から眺めた。

夜は、串焼きのお店で食事をした。棚原さんは半年ほど前に結婚したばかりの新婚ということもあり、ブラジルでの結婚式事情や婚活事情を聞いてよかった。その後棚原さんのお宅を經由したあと、棚原さんが通っている柔道場を訪問し、見学して、宿に戻った。

2月5日（火） サンパウロ4日目

この日、サンパウロからイグアスへ津嘉山さんと一緒に行くことになっているので、空港へ向かった。空港で津嘉山さんと合流し、そのままイグアス行きの便で出発した。

現地につくと、レンタカーもようやくとれるほど、観光客がたくさん来ているようで、イグアスの人気ぶりがうかがえた。この日は、ホテル TAROBA へ宿泊する。

夜はギネス記録に掲載されるほど有名な8か国の地域のダンスショーとシュラスコを食べて宿に戻った。

2月6日（水） サンパウロ5日目

朝、ホテルを出発して津嘉山さんの運転でイグアスに向かった。途中で鳥のテーマパークを見学した。ブラジル各地域の鳥たちを見ることができる施設で見たこともない色とりどりの毛をした鳥たちを見ることができた。とても面白かった。

テーマパークを見た後、車からバスに乗り換え、さらに滝のエリアに向かっていった。途中、イグアスの滝の手間から川においてボートから滝を見ることが出来る船着場があり、ボートにのって水上から滝を見学した。水流がかなりあり、滝の近くまで行くと白波があがるほど波打っていた。船から見上げた滝はそのあまりの迫力にとっても興奮した。

ボートを降り、さらに1km程の道のりを歩いてイグアスの滝に向かった。遠くからゴォーと地鳴りのような音が聞こえてきて、だんだん大きくなっているのがわかった。

目的の最大の滝についたときには、その迫力に圧倒されたただただ驚いていた。ブラジルの自然の大きさを改めて実感することができ、とても感動した。

その後、昼食をとり、お土産等を買って、バスで車を止めている場所まで戻った。すぐに空港へ向かいサンパウロへ向けて出発した。

2月7日（木） サンパウロ6日目

この日は朝から、津嘉山さん、伊波せいちゅうさん等と一緒に、玉城さんの親戚がいると思われるイタリリというところを目指して出発した。移民されたのは、玉城さんのおじいさんのご兄弟のようで、その子供達と10年前に会った後はお会いできていないようであった。イタリリについて、街でうちな一んちゅの皆様に見せながら情報を探したところ、イタリリの地域に親戚がいらっしゃることがわかり、お会いすることになった。私には移民した親戚などはいないため実感がなかったが、沖縄から親戚など会うときには、とても大変な情報収集が必要になるのだと感じた。玉城さんの親戚にあたる方はバナナ園を経営されており、かなりの高齢であったが、兄弟や子、孫の名前もしっかりと覚

えており、当時の移民の様子から最近の状況などいろいろお話して下さった。足が少し悪いとのことでなかなか沖縄には行けないようだが、今回玉城さんが交流で繋いだことで、これからも沖縄のブラジルイタリリで親戚同士の付き合いが続くと思うと感動を覚えた。

2月8日（金） サンパウロ7日目

研修も最後である。津嘉山敏夫さんの奥さんのきょうこさんが迎えに来てくださり、お父さんのお宅へお邪魔した。東村の出身とのことで、移民に向けての話や当時の東村の話など大変勉強になった。

午後は昼食をとり、アパートで荷造りを行った。別れが近づいておりだんだんと帰りたくない気持ちが湧いてくる。

夕方に津嘉山敏夫さん、修さんが迎えにきてくださり、空港では棚原さんや知念直義さん等みなさんが見送りにきていた。空港で別れの挨拶をしたり、記念撮影をしてみんなで再会を誓った。今回ブラジルとボリビアの皆様大変お世話になった一カ月間であり、充実した研修が終えられたことに感謝の気持ちでいっぱいになった。

また皆様と再会を誓い、お別れをして、玉城さんと一緒に沖縄へ向けて出発した。

2月10日（日） アトランタ、成田経由、沖縄着

アトランタ、成田を経由して、沖縄に到着した。空港では、城野さん、當山さん等が出迎えてくれた。無事沖縄についてほっとした気持ちになった。みんなで到着の記念撮影をし、無事沖縄に帰ったことをブラジル、ボリビアでお世話になった方々、友人へメッセージした。

最後に

本研修で、お世話になった皆様、恩納村の皆様、そして私を南米研修に送り出してくれた家族、一緒に研修を受けた玉城悠様、すべての皆様に心から感謝します。たくさんのお会いと思い出ができました。今回、とくに三線等の沖縄文化の面と、自分の研究テーマである環境問題、経済研究の面の両方から見ることができ、現地でたくさん学ぶことができました。これからも恩納村や沖縄、世界のうちなーんちゅの皆様のために尽くしていけるよう頑張りたいと思います。本当にありがとうございました。



修了証

恩納村派遣第4号

比屋根 良直

平成30年度恩納村青年海外派遣事業に於いて、研修生として研鑽に励み、恩納村出身の海外移住者子弟等との絆を深めるとともに、国際交流に関する知識と経験を身につけられました。

よって研修終了したことをここに証します。

研 修 期 間 : 平成31年1月9日～平成31年2月10日

研 修 先 : ブラジル(サントス・サンパウロ・カンポグランデ・ロンドリーナ)・ボリビア

平成31年2月14日

恩納村長 長浜 善巳



スナップ写真



ブラジル、サンパウロ空港にて



津嘉山敏夫さんの建物建設現場で働く人(休憩中)



敏夫さんの息子トモヒロさんが管理するイベント会場



サントスの公民館で三線練習に参加



県人会の人とフットサル
若いネイマールにサッカーを教えた玉城さん



パステル工場見学



ボリビアの空港で恩納村人会のお迎え



コロニアオキナワ名物、肉天ぷら



日本ポリビア協会の資料館で移民の歴史勉強



渡久地家にて長男リョウ君に民族楽器を教わる



あきらさんの魚養殖所にて餌やり体験



津嘉山慎吾さんの大豆畑を見学



ニーセーターツアーの見学



県人会の方々との交流



日本ポリビア協会の資料館視察



コロニアオキナワの日本語学校を見学



マキさん宅で鰐が養われていた



釣り堀で釣り



コロニアオキナワ三線愛好会と三線練習



コロニア交流会 安里さん



津嘉山あきらさん宅にて奥様と



奥様の絶品手料理、シーマーマイスープに牛ミンチ揚げ



サンタクルスの朝市



サンタクルスのスーパー



朝市にて買い物



カンボグランデ到着、県人会の方々お出迎え



カンボグランデのウチナンチュの皆さんと文化交流



山内幸秀さん色々なお話を聞かせてくれました。



料理上手な源河君枝さん



沖縄そばも美味しかった



市内でドラッグストアを営むミチコさん家族



沼地パンタナルに朝早くから5時間かけて行きました



パンタナルの水しぶき



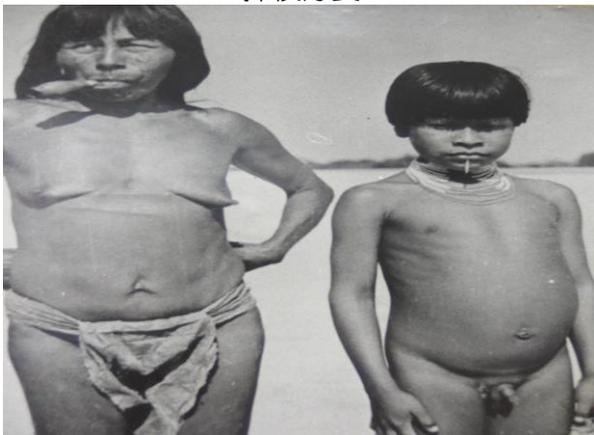
船で広い沼を探検



探検隊長



無事陸に戻れたが…



カンポグランデ民族博物館見学



大変お世話になったよしこさん



三線の先生に発表



沖縄文化を愛するクリスチャンさん



カンボグランデ県人会と送別会



見送り。大変お世話になりました。



ロンドリーナで県人会と歓迎会



ロンドリーナ県人会長 城間ルイスさん



ロンドリーナの朝市(フェーラ)



ロンドリーナの朝市(フェーラ)



パステウの名店比嘉侍



アボガドとミルクのvitaminという飲物



荻堂絹さん宅にて、恩納村広報誌を大事に保管、かめーかめー攻撃の歓迎



長嶺さん宅にて孫さんと三線コラボ演奏



一緒に食事



国吉千恵美さんの祖父祖母宅



まだまだ元気に泡盛を飲みます(命薬)



国吉父、薫さんとフットサル



ロンドリーナ市内にある日本公園



コーヒー園見学



園内のブランコで休憩



サンパウロに移動、タワーからの街並み



日系移民も昔入ってきた駅



棚原一族とカラオケ大会、左は栄子の母と姉、右は去年の研修生、棚原国広





棚原栄作さんが市内観光に連れて行ってくれた



サンパウロ柔道場見学



デモ隊に遭遇



県人会館で行われている文化講習を見学



琉球国祭太鼓、レキオスのエイサー練習見学





研修生OBの集まり、うりずん会と交流



サントスに戻り、街並みをマンションの屋上から、県人会の方の家から



イグアスの滝に敏夫さんと行きました。



南米の国々の伝統的踊りが見れるレストラン





滝近くの野鳥がメインの動物園ではしゃぐ敏夫さん



イタリリ近くで果物狩り、親戚にも会えました



サントス市内のレストランで送迎会、そして帰国



沢山の方々にお会い出来、最高に充実した1か月間でした。

青年海外派遣事業 **ブラジル・ポリビアへ**

恩納村では「恩納村青年海外派遣事業」として、2人の青年を村出身者海外移住国へと派遣しています。今年度は玉城悠さんと比屋根良直さんが、平成31年1月から約1ヵ月間ブラジルとポリビアで現地の村人会等と交流します。帰国後も移住地との交流の懸け橋となれる人材の育成を図ることを目的として事業を実施しています。

玉城 悠 (前兼久)

遠くにいるウチナーンチュと親睦を深め永久に続く関係を築きたいと思います。

帰国後も恩納村の国際交流に協力し、移住国とのネットワークをつないでいけるような人材になりたいと思います。



比屋根 良直 (太田)

ブラジル・ポリビアには、恩納村人会をはじめ、多くのウチナーンチュが活躍・交流されています。そのパワーを肌で感じ、国際色豊かな地でたくさん学び、研修後は恩納村のために活かしていけるよう頑張ります。



新報社掲載 2019年2月18日(月)



恩納村研修生としてポリビアに派遣された比屋根良直さん(前列中央)、玉城悠さん(同左)と移住地を案内した県系人の家族11月、ポリビア

玉城さん 恩納村から研修 比屋根さん

県人の生活触れ交流

恩納村で居酒屋とホテルを経営する玉城悠さん(28)と、沖縄国際大学特別研究員で野村流音楽協会三線教師の比屋根良直さん(28)が1月13日から1週間、同村の研修生としてポリビアに派遣された。2人はオキナワ移住地とサンタクルス市の各地を訪れ、県系人と交流を深めた。

ポリビア

滞在中2人は、オキナワ移住地の移民資料館をはじめ、オキナワ日米協会、オキナワ第一日米校を訪問。県系人が経営する食堂やレストラン、農地、養豚場も訪れたほか、デイサービス

の活動にも参加して、県系人の生活に触れた。

比屋根さんは村人会の集まりやデイサービスなど行く先々で得意の三線を披露、玉城さんも谷茶前(たぬちやめし)の踊りで魅了した。県系人の高齢者からは「若い人の沖縄民謡を久しぶりに聞いた。昔の友達を思い出した」などと懐かしがる声や喜びの声が上がった。

比屋根さんはオキナワ移住地について「沖縄の文化と言葉がたくさん残っていて、温かさを感じた。仕事も飲み場も一生懸命」と話した。

玉城さんは「どこか懐かしさを感じる」と語り、「畑や養豚場は沖縄よりも衛生面が整っていた。沖縄が学ぶべきものがたくさんある」と強調した。

また「ポリビアの農地は広い。地平線が見えたことに感動した」と話し、広大な大地に魅了された様子だった。

恩納村の海外派遣研修生は今年で2回目。研修生はポリビアのほか、ブラジルに3週間滞在する。(安里玉元三奈美通信員)

參考資料

恩納村青年海外派遣事業実施規則

平成29年3月31日

規則第9号

(目的)

第1条 恩納村青年海外派遣事業（以下「この事業」という。）は、恩納村の青年を恩納村出身者海外移住国（以下「移住国」という。）へ派遣し、村人会等並びに現地との交流や異文化体験を通じて国際的な視野を広げ、地域において意欲的に活動する青年の育成を図るとともに移住国と恩納村との友好親善関係の増進に資することを目的とする。

(応募資格)

第2条 この事業に応募できる者は、次の各号に該当する者とする。

- (1) 対象年度の4月1日現在、1年以上恩納村に本籍又は住所を有する者
ただし、本籍については学校進学のため一時的に住所を異動している者に限る。
- (2) 原則として22歳以上35歳までの者
- (3) 研修前及び研修後において、村の主催する国際交流事業へ積極的に参加できる者
- (4) その他村長が認める者

(派遣人員)

第3条 派遣人員は若干名とし、当該年度の派遣人員は、恩納村青年海外派遣事業検討委員会（以下「委員会」という。）を設置して決定するものとする。

(申請)

第4条 この事業に応募する者は、様式第1号から第4号までの書類により申請するものとする。

(選考)

第5条 派遣する者は、前条の規定による申請者の中から選考により決定する。

2 前項の規定による選考は委員会で決定するものとする。

(研修費用)

第6条 恩納村を出発し、帰国するまでの往復旅費、研修期間中の滞在費、海外旅行保険料及びその他の研修に要する経費は、村負担とし、恩納村職員旅費支給条例（昭和44年条例第3号）及び恩納村青年海外派遣事業交付金支給要領（平成29年要領第1号）に準ずる。ただし、私的な経費は本人負担とする。

(交付申請)

第7条 交付金の交付を受けようとする者は、交付金交付申請書（様式第5号）

を村長に提出しなければならない。

(交付決定)

第8条 村長は前条に規定する申請を適当と認めるときは、交付金交付決定通知書(様式第6号)を交付する。

(申請の取下げ)

第9条 交付決定通知を受けた者が交付申請を取り下げるときは、交付金の交付決定通知書を受けた日から起算して30日以内に、交付申請取下げ書(様式第7号)を村長に提出しなければならない。

(取消し)

第10条 村長は、交付金の交付決定後、次の各号のいずれかに該当することとなった者については、交付金の交付決定を取り消すことができる。

- (1) 研修に参加できなくなった者
- (2) 研修生として不相当と認められる事実が判明した者

(返還)

第11条 第9条により交付申請を取り下げた者、又は前条により交付決定を取り消された者は、既に交付金の交付を受けている時は、村長が定める期日までに交付金の一部又は全部返還しなければならない。

(実績報告)

第12条 交付金の交付を受けた者は、当該事業完了後30日以内に実績報告書(様式第8号)を村長に提出しなければならない。

(研修内容)

第13条 研修内容は、移住国の文化、産業等の異文化体験を通じて国際的な視野を広げるものとする。

(研修場所)

第14条 研修場所は、村が指定する移住国とする。

(研修時期及び期間)

第15条 研修時期及び期間は、毎年委員会で決定するものとし、おおむね1か月とする。

(研修生の義務)

第16条 研修生は、次の義務を負うものとする。

- (1) 報告
 - ア 日報を付けること
 - イ 研修報告を作成すること

(2) 親善事業

ア 研修前及び研修後において、村の主催する国際交流事業へ積極的に参加すること

イ 研修先及び村人会等の行う事業等に積極的に参加すること

(3) その他

ア 研修期間中は、研修計画に基づき行動するものとし、所定外の行動をするときは、現地関係者と十分な調整を行うこと

イ 研修目的から逸脱しないこと

ウ 法令を遵守し、現地における村人会等及び研修先等との連絡を密にし、身の安全や健康管理には十分に注意すること

(研修体制)

第17条 研修体制は、次のとおりとする。

(1) 移住国村人会等への協力依頼

村は、受入先の村人会等へ安全面並びに病気、怪我及び事故等の際の対応、処理又は連絡等の協力を依頼する

(2) 連絡体制

研修生は、村役場に適宜連絡を行うこと。研修日程等に変更がある場合には、その都度連絡すること

(保険)

第18条 村は研修生の研修期間中にかかる海外旅行保険に加入する。

(帰国)

第19条 研修終了後は速やかに帰国するものとする。ただし、特別な理由により村長が必要と認めた場合は、この限りではない。

(委任)

第20条 この規則に定めるもののほか、必要な事項は、村長が定める。

附 則

この規則は、公布の日から施行する。

附 則

この規則は、平成30年4月1日から施行する。

研修生派遣実績一覧

年度	第 回	氏名	性別	出身	派遣期間	月数	派遣先
29	1	山城 修吾	男	恩納	平成30年1月9日 ～平成30年2月10日	1	ブラジル (サントス・サンパウロ・ カンポグランデ・ロンドリーナ) ポリビア
		長濱 茜	女	宇加地			
30	2	玉城 悠	男	前兼久	平成31年1月9日 ～平成31年2月10日	1	ブラジル (サントス・サンパウロ・ カンポグランデ・ロンドリーナ) ポリビア
		比屋根 良直	男	太田			

